

小規模離島の環境保全団体 サポートプロジェクト

＜実施報告書 | 調査レポート＞

令和4年度 日本財団海と日本PROJECT助成

NPO法人離島経済新聞社実施事業

作成日: 令和5年3月31日

目次

0)事業概要

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査

1-1 小規模離島地域の現地調査報告【101島】

2)小規模離島地域の現地調査

2-1 小規模離島地域の現地調査報告【10島】

3)調査報告の公開

3-1 有人離島専門メディア『ritokei』(ウェブサイト)での調査報告公開

3-2 有人離島専門メディア『季刊ritokei』(フリーペーパー)での調査報告公開

4)環境保全活動の支援活動

4-1 要支援地域3島とのマッチングイベント開催

4-2 オンラインコミュニティの運営

4-3 要支援地域3島への情報発信支援

5)広報実績

6)総括

0)事業概要

1.小規模離島地域における環境保全活動の実態調査

- ・実態が把握できる島の数 100島

2.小規模離島地域の現地調査

- ・特に大きな課題を抱える島の実態調査 10島

3.調査報告の公開

- ・有人離島専門メディア『ritokei』ウェブサイト 累計UU数 30万以上(2022年7月～2月累計)
- ・有人離島専門メディア『ritokei』フリーペーパー 掲載紙の発行部数 6万部(2022年8月/11月/2023年2月累計/180島以上、1200カ所以上に配布)

4.環境保全活動の支援

- ・小規模離島地域の環境保全団体と連携 3島
- ・環境保全団体と新規サポーター候補とのマッチングイベント開催 3回
- ・環境保全団体と新規サポーター候補とのマッチング数 1島あたり30人以上
- ・新規オンラインコミュニティのサポーター人数 100人以上
- ・環境保全団体の情報発信支援 15コンテンツ以上(1島あたり5コンテンツのPR動画・写真・原稿素材を作成)

1) 小規模離島地域における環境保全活動の実態調査

■実施内容

海洋ごみに関する調査は各種の団体が行っているが、人口500人以下の小規模離島に限っては、過去に類似の調査は行われていない。そこで、実態把握が難しい小規模離島地域に限定した一斉調査を行なった。

■調査概要

調査タイトル: 海洋ごみ清掃活動実施状況に関するアンケート

調査日時: 2022年6月1日(水)～2022年7月22日(金)

調査対象地域: 概ね人口500人以下の地域のうち、小中学校の有無や地理的状况や人口規模の違いなどから100島を選定し実施

回答者: 対象離島を担当する市町村担当者、自治会担当者、学校関係者など(※小規模離島においては市町村担当者が現地の状況を把握していない場合があるため、現地での清掃活動を担当する住民や学校関係者も調査対象に含めた)

回答方法: 調査票を送付の上、メールもしくはFAXによる文面での返信、または電話によるヒアリングにて実施

調査票送付数: 101件

調査票回収数: 101件

有効回答率: 100%

▼同調査で使用したアンケート依頼用紙



1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査

▼同調査で使用した調査票。オンライン回答が可能な対象者には、オンラインフォームを案内した。

○ 離島経済新聞社 **ritokey**

◆海ごみ清掃活動実施状況に関するアンケート
お住まいの島の海ごみ清掃活動実施状況に関して、下記設問にご回答頂けないでしょうか。

>>[オンライン回答フォーム](#)からご回答頂けます。

ご回答者の氏名: _____ 所属: _____

①お住まいの島で海ごみの清掃活動を行っているでしょうか。

はい・いいえ

①で「はい」とご回答頂いた方へ お聞きます。
(1)過去3年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。
(回答例:公民館活動として、毎年1回浜辺の清掃を実施、ゴミ袋10袋分ほど)

ご回答:

(2)海ごみ清掃活動に島外の協力者は参加していますか。

はい・いいえ

※「はい」とご回答頂いた場合、参加している団体数や参加人数の規模を教えてください。
(回答例:○○大学ゼミ生 30人、NPO法人○○ 3人 など)

ご回答:

①で「いいえ」とご回答頂いた方へ お聞きます。
(1)海ごみ清掃活動を実施できていない理由や実施しない理由をお聞かせください。
(回答例:ビーチがなく崖ばかりのため実施していない)

ご回答:

②海ごみ清掃活動に関する悩みや希望で当てはまるものを選んでください(複数選択式)

人手が足りない・人手を集められない(広報できない)・費用が足りない・資材や道具が足りない・活動にきりが無い・地形的な難しさがある・回収したごみの保管場所がない・島外搬出が難しい

差し支えない範囲で具体的に教えてください:

○ 離島経済新聞社 **ritokey**

③海ごみ清掃活動を今後拡大したいですか？

はい・いいえ

③で「はい」とご回答頂いた方へ お聞きます。
(1)外部人材(民間企業・団体や社会人ボランティア、大学生など)の協力が得られる場合、希望しますか。

はい・いいえ

④海ごみ清掃活動に関して、悩みや希望、コメント等ございましたらご記入ください

ご回答:

アンケートは以上となります。
調査結果を集計した掲載紙を8月下旬に発行予定です。
掲載紙の宛先のご記入をお願いします。

氏名:
所属:
連絡先:
住所:

ご協力いただき、ありがとうございました。
ご回答後、下記宛先まで送付をお願いいたします。

Mail: edit@ritokey.com または FAX: 03-6745-4943

オンライン回答フォームはこちら>>>



1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <調査対象離島一覧>

▼同調査へ有効回答のあった101島

北海道 羽幌町 天売島
山形県 酒田市 飛島
宮城県 石巻市 網地島
宮城県 塩竈市 野々島
東京都 新島村 式根島
東京都 小笠原村 母島
新潟県 粟島浦村 粟島
静岡県 熱海市 初島
愛知県 西尾市 佐久島
三重県 鳥羽市 神島
三重県 鳥羽市 菅島
三重県 志摩市 渡鹿野島
兵庫県 南あわじ市 沼島
兵庫県 姫路市 男鹿島
岡山県 備前市 頭島
岡山県 瀬戸内市 前島
岡山県 笠岡市 白石島
岡山県 笠岡市 六島
広島県 福山市 走島
広島県 尾道市 百島
広島県 大竹市 阿多田島
山口県 周防大島町 浮島
山口県 柳井市 平郡島
山口県 田布施町 馬島
山口県 上関町 祝島
山口県 防府市 野島
山口県 下関市 蓋井島
山口県 下関市 六連島
山口県 萩市 見島
山口県 萩市 大島
山口県 萩市 相島

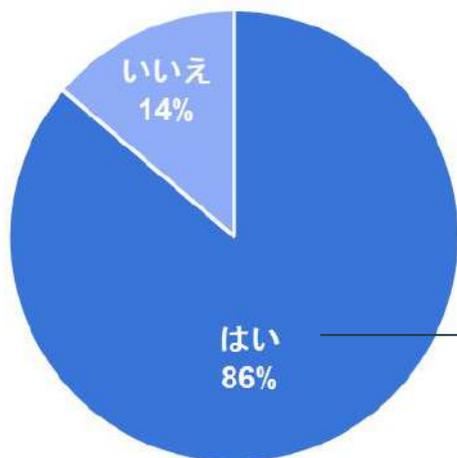
徳島県 阿南市 伊島
香川県 土庄町 沖之島
香川県 土庄町 小豊島
香川県 直島町 屏風島
香川県 直島町 向島
香川県 高松市 男木島
香川県 高松市 大島
香川県 丸亀市 本島
香川県 丸亀市 小手島
香川県 多度津町 佐柳島
香川県 多度津町 高見島
香川県 三豊市 粟島
香川県 三豊市 志々島
香川県 観音寺市 伊吹島
愛媛県 上島町 高井神島
愛媛県 上島町 魚島
愛媛県 新居浜市 大島
愛媛県 松山市 野忽那島
愛媛県 松山市 二神島
愛媛県 宇和島市 嘉島
愛媛県 宇和島市 戸島
愛媛県 宇和島市 日振島
高知県 宿毛市 沖の島
徳島県 牟岐町 出羽島
福岡県 北九州市小倉北区 馬島
福岡県 北九州市小倉北区 藍島
福岡県 宗像市 地島
福岡県 新宮町 相島
福岡県 福岡市西区 玄界島
福岡県 福岡市西区 小呂島
福岡県 糸島市 姫島

佐賀県 唐津市 小川島
佐賀県 唐津市 加唐島
佐賀県 唐津市 松島
佐賀県 唐津市 馬渡島
佐賀県 唐津市 向島
佐賀県 唐津市 高島
長崎県 壱岐市 大島
長崎県 松浦市 青島
長崎県 平戸市 大島
長崎県 平戸市 度島
長崎県 平戸市 高島
長崎県 小値賀町 大島
長崎県 五島市 久賀島
長崎県 五島市 椀島
長崎県 五島市 嵯峨島
長崎県 西海市 江島
長崎県 西海市 平島
長崎県 長崎市 池島
長崎県 長崎市 高島
長崎県 佐世保市 高島
長崎県 佐世保市 黒島
熊本県 上天草市 湯島
大分県 津久見市 地無垢島
大分県 佐伯市 大島
大分県 佐伯市 深島
鹿児島県 長島町 伊唐島
鹿児島県 屋久島町 口永良部島
鹿児島県 三島村 竹島
鹿児島県 三島村 硫黄島
鹿児島県 三島村 黒島

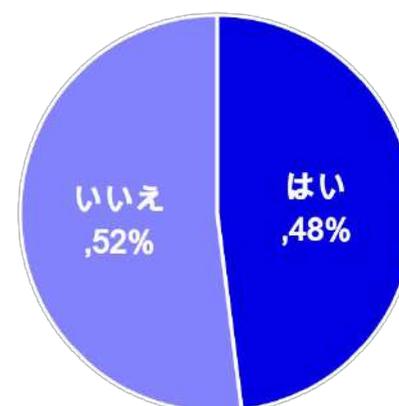
鹿児島県 十島村 口之島
鹿児島県 十島村 諏訪之瀬島
鹿児島県 十島村 平島
鹿児島県 十島村 小宝島
鹿児島県 十島村 宝島
鹿児島県 瀬戸内町 与路島
鹿児島県 瀬戸内町 請島
沖縄県 伊平屋村 野甫島
沖縄県 本部町 水納島
沖縄県 うるま市 津堅島
沖縄県 南城市 久高島
沖縄県 渡名喜村 渡名喜島
沖縄県 座間味村 阿嘉島
沖縄県 竹富町 竹富島
沖縄県 竹富町 鳩間島
沖縄県 竹富町 黒島
沖縄県 竹富町 波照間島

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

Q1 お住まいの島で海ごみの清掃活動を行なっていますか？



<Q1で「はい」とご回答頂いた対象者へ>
海洋ごみの清掃活動に島外の協力者は参加していますか？



<「はい」の実施主体や団体>
地元および国や県などの行政機関、自治会(青年団・子ども会・公民館活動等)、ボランティア団体(環境保護団体や学生団体、島外企業など)、学校関係者(児童生徒、保護者を含む)、まちづくり団体、漁業従事者や観光事業者、委託業者など

「はい」の具体例

- 公民館活動として海岸清掃を定期実施
- 海開き前に学校関係者が清掃活動を実施
- 地域の地縁団体と島内に事業所を持つ企業が協力して定期的に清掃活動を実施
- 都道県による委託事業、国の直営事業、漁協受託事業などの海岸管理として清掃を実施

「いいえ」または「把握していない」理由

- 住民は草刈りなど集落の清掃活動で手一杯なので漂着ごみまで手が回っていない
- 遠隔地にあり、清掃活動を行おうにも協力者がいない。島に住んでいる世帯も数える程しかおらず、皆が高齢者である
- コロナ禍以降は清掃活動を行っても島外の搬出や処分方法が難しいので行っていない
- ビーチが少なく漁港が多いため
- やってもきりがないうえに人手がない

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1 自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

菅島(三重)	<ul style="list-style-type: none">・町民全体大掃除 毎年しろご祭りの1週間前に町内各団体参加で清掃を実施、軽トラ10台分ほど・海岸清掃 学校運営協議会の活動 2022.5.1 海水浴場で清掃を実施 ゴミ袋10袋程度
神島(三重)	漁業者の方による海浜清掃(例年6月下旬、ゴミの量としては不明) あとは観光事業者などが個人的に実施
水納島(沖縄)	年一回、3月に開催(4月以降、来島者が増える前に)45lのゴム袋に50袋程。袋に入らない漁具はそのまま出す
佐久島(愛知)	令和3年度は5回。島を美しくつくる会が実施。ゴミ袋は数えていませんが大量にある
六連島(山口)	天候が悪くなった翌日など、港の斜路に打ち上げられてごみが溜まった時に漁協の方が行っている。また、月に一度島の婦人部が大掃除を行う。ゴミの量は、日によって違うが45リットルの袋が6割ほど埋まるくらい。 ゴミの内容はペットボトル、お菓子の袋、発泡スチロールの一部や釣り餌のパック、空き缶など。
口永良部島(鹿児島)	<ul style="list-style-type: none">・公民館行事(ボランティア)6月に1回、参加者(子ども含む)約60人、ゴミ回収量ゴミ袋100袋、大型ゴミ1t袋5袋くらい・公民館行事(環境省請負)マリンワーカー事業(有償)10月頃、参加者約70人(屋久島からのパークボランティアを含む)・島内の会社(行政事業請負)海岸漂着物回収、分別処理事業、10月から1月末、島内5箇所くらいで実施、全回収量は平均4t、仕事で来ている土木工事の方はよく参加してくれる。
初島(静岡)	地域の地縁団体と島内に事業所を持つ企業が協力して、毎年9月初旬に海岸のごみ拾いを行っている。例年軽トラックに6~7台ほどのごみを回収している

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

硫黄島(鹿児島三島村)	三島村漁協組合が年2、3回実施。トン袋7～10袋ほか大型ごみ(ドラム缶など)
竹島(鹿児島三島村)	児童生徒会活動として漁協と協力して年2回港の掃除を実施。ゴミ袋3袋
伊唐島(鹿児島長島町)	海岸漂着物等地域対策推進事業で年2・3回実施 ゴミ袋で20袋程度
黒島(鹿児島三島村)	実施時期 7月、主体者 子供会、清掃活動内容 海岸に漂着したゴミの回収、回収量 軽トラ1台分
前島(岡山県牛窓市)	<ul style="list-style-type: none"> ・カリヨンハウス・・・年に数回、受け入れた学校が学習の一環でゴミ拾いをするところがある、量は不明。 ・平林金属・・・詳細不明 ・牛窓ウォータートレイル・・・牛窓ウォータートレイルのエコロジーディスカウント。ツアー参加者がゴミ拾いするとツアー料金から300円引き。実施時期は不定期随時。2021年がプラ系138袋 缶ビン系24袋、2020年はプラ系92袋 缶ビン系32袋、2019年はプラ系246袋 缶ビン系50袋(すべて土嚢袋の数) ・牛窓のスナメリを見守る会のビーチクリーン・・・2019年に60袋ぐらい。(土嚢袋)
母島(東京都小笠原村)	海岸管理として(東京都委託事業、国直営事業、漁協受託事業)、ボランティア回収として(観光協会、小中学校、島民他) 計年間約10トン
玄界島(福岡県府福岡市)	自治協議会(自治会)活動として年4～5回、海岸清掃や磯の打ち上げごみの回収を実施。各回ごみ袋10袋程度。
式根島(東京都新島村)	式根島青年団が1月～6月・10月～12月で毎月1回実施。1度で軽トラック2～3台分のごみを収集

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

大島(長崎県小値賀町)	町内一斉海岸清掃 毎年1回(7月上旬) 各地区の海岸の清掃を実施 29トン
姫島(福岡県糸島市)	行政区として年に二度、6月と9月に開催。県の土木整備事務所、消防署、唐津海上保安庁などと当日の時間を調整しつつ行う。ゴミの内容は外国のプラスチック製品、漁具が多いが、他県から流れついてきた材木や発泡スチロールも。糸島市の指定ゴミ袋で可燃、不燃分けて出す。約30袋程になる。ゴミで出た草木は島内で燃やしている。
江島(長崎県西海市)	島内にある小中学校の清掃活動の一環として実施。年1回お盆前に地域の方々で実施
渡名喜島(沖縄県渡名喜村)	行政と学校が中心になり、漁業従事者等のボランティアを募り夏季や台風通過後、毎年数回程度清掃活動を実施。回収量は1回の活動でフレコンバック10袋ほど
百島(広島県尾道市)	地域住民による自主的な活動として海浜清掃を年1程度実施。収集する海ごみの量は、おおむね2トンダンプ2車程度
平郡島(山口県柳井市)	令和3年11月14日、21日に柳井市主催でボランティアを募集し、海岸清掃を実施
野島(山口県防府市)	海開き前に、次の団体が浜辺を清掃している。 ・野島小中学校・野島地域自治会連合会 ※正確なゴミの量は把握できていない
六島(岡山県笠岡市)	「浜のクリーン作戦」として、打越の浜の清掃。自治会や公民館、保護者、学校関係者などで清掃。そのほか、住民のゴミ拾いも定期的に行われている。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

二神島(愛媛県松山市)	2021年度(11月～3月実施)二神島1回(45ℓ84袋)NPO団体松山北高校興居島ボランティアチームが主催、企画し、島嶼部での海岸清掃活動や定期的な海岸状況調査を実施している
野忽那島(愛媛県松山市)	2021年度(11月～3月実施)野忽那島1回(45ℓ74袋)NPO団体松山北高校興居島ボランティアチームが主催、企画し、島嶼部での海岸清掃活動や定期的な海岸状況調査を実施している
中島(愛媛県松山市)	2020年度(7月～3月実施)中島1回(45ℓ35袋)NPO団体松山北高校興居島ボランティアチームが主催、企画し、島嶼部での海岸清掃活動や定期的な海岸状況調査を実施している
興居島(愛媛県松山市)	2021年度(11月～3月実施)興居島9回(45ℓ878袋) 2020年度(7月～3月実施)興居島10回(45ℓ846袋)NPO団体松山北高校興居島ボランティアチームが主催、企画し、島嶼部での海岸清掃活動や定期的な海岸状況調査を実施している
釣島(愛媛県松山市)	2021年度(11月～3月実施)釣島1回(45ℓ92袋) 2020年度(7月～3月実施)釣島1回(45ℓ38袋)NPO団体松山北高校興居島ボランティアチームが主催、企画し、島嶼部での海岸清掃活動や定期的な海岸状況調査を実施している
馬島(田布施市)	自治会活動として、毎年1回7月中旬に海岸清掃を実施、ゴミ袋20袋分ほど
湯島(熊本県上天草市)	湯島小中学校の、海開きの時に毎年生徒と保護者や先生方と清掃活動をされています
男鹿島(兵庫県姫路市)	夏の海開き前に必ず実施。その他、海にごみが集まっているなど感じた際に随時実施。ゴミ袋30袋ほど。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

伊島(徳島県阿南市)	漁業協同組合として不定期に(台風通過後や時化後など)。量は船外機船20隻ほど。
大島(壱岐市)	主催:壱岐市 内容:国庫補助事業を活用した海岸漂着ごみの回収・運搬・処分(業者委託) 実施時期:10月~1月末 ゴミの量:R3年度:115m ³ (12.9t)・R2年度:88m ³ (10.0t) R元年度:85m ³ (9.6t)
小浜島(沖縄県竹富町)	公民館活動及びボランティア団体において、海岸の状況に応じて随時行っている。小浜島4,970kg(令和3年6月~令和4年3月までの処理した漂着物の量となります。国の補助金を活用した活動は含まれておりません。ボランティアで公民館及び団体が回収した漂着物の量となります)
黒島(沖縄県竹富町)	公民館活動及びボランティア団体において、海岸の状況に応じて随時行っている。黒島4,640kg(令和3年6月~令和4年3月までの処理した漂着物の量となります。国の補助金を活用した活動は含まれておりません。ボランティアで公民館及び団体が回収した漂着物の量となります。)
波照間島(沖縄県竹富町)	公民館活動及びボランティア団体において、海岸の状況に応じて随時行っている。波照間4,810kg(令和3年6月~令和4年3月までの処理した漂着物の量となります。国の補助金を活用した活動は含まれておりません。ボランティアで公民館及び団体が回収した漂着物の量となります。)
鳩間島(沖縄県竹富町)	公民館活動及びボランティア団体において、海岸の状況に応じて随時行っている。(鳩間島3,820kg 令和3年6月~令和4年3月までの処理した漂着物の量となります。国の補助金を活用した活動は含まれておりません。ボランティアで公民館及び団体が回収した漂着物の量となります。)
沖の島(高知県宿毛市)	観光協会が主催として、海ゴミや漂流ゴミの清掃を年に1回行っている。地元の方中心でおこなっている。また、台風後など漂着ごみが多数の時に実施することもある。また、ゴミがたくさん入る袋を設置しており、ある程度貯まると県の土木課に収集を依頼して取りに来てもらうことになっている。
祝島(山口県上関市)	不定期に個人または有志で開催

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

津堅島(沖縄県うるま市)	昨年輕石の被害があったので島外の協力者と共に清掃した。5年ほど前に島外の津堅島出身者や本島の漁業関係者などで清掃活動を行ったことはある。その後、年に一度「環境デー」を設けて島外からもボランティアに来てもらい、海ごみの清掃イベントを行おうと思ったが、コロナで人を集めることが出来ず今に至っている。
大入島(大分県佐伯市)	各地区活動として、年1回海岸等の清掃作業を実施
大島(大分県佐伯市)	地域活動として、年1回海岸の清掃を実施
深島(大分県佐伯市)	地域活動として、年1回草刈りと海岸の清掃を実施
屋形島(大分県佐伯市)	地域活動として、年1回草刈りと海岸の清掃を実施
志々島(香川県三豊市)	地元信用金庫の活動で、毎年1回のビーチグリーン。ゴミ袋10袋ほど
佐柳島(香川県多度津町)	島民や地元漁業組合員により、毎年数回海岸清掃を実施している。また、地元漁業組合員が操業中に海面で回収したゴミを随時陸揚げしている。
高見島(香川県多度津町)	島民や地元漁業組合員により、毎年数回海岸清掃を実施している。また、地元漁業組合員が操業中に海面で回収したゴミを随時陸揚げしている。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

粟島(香川県三豊市)	TARA 海洋環境研究活動 年2.3回 ゴミ袋10袋ほど まちづくり推進隊 年2.3回 ゴミ袋10袋ほど
度島・高島(長崎県平戸市)	実施時期:例年11月～1月、委託先:平戸市シルバー人材センター、清掃活動:平戸市内の海岸、活動内容:海岸漂着物の回収、回収量:40～50t(流木、廃プラスチック類、漁網等)
池島(長崎県長崎市)	池島地域活性化連絡協議会の活動として草刈りと共に不定期(年に1回程度)で実施。量については把握していない。
相島(福岡県新宮町)	①地元行政区:年に1回、4月に地域一斉清掃。島内の一斉清掃として海岸も含めて清掃を行っておりますが、回収したごみの量については、海ごみのみでの計量は行っておりませんので、不明です。 ②海岸清掃(委託事業):年に1回、12月に漁港海岸の清掃町が漁業組合に委託し、清掃を行っています。回収量:900kg ③島内小中学校:清掃回数や回収量については把握しておりません。 ④島内で活動している団体:定期的に清掃を行っていますが、清掃回数や回収量については把握しておりません。
阿多田島(広島県大竹市)	阿多田島漁業協同組合が美化団体として実施。毎年1回島周辺の海浜を約170名で清掃し、ごみ袋20袋程度回収している。これとは別に、個人で海ごみ清掃活動をしている島民も何人かいる。
志々島(香川県三豊市)	地元信用金庫の活動で、毎年1回のビーチグリーン。ゴミ袋10袋ほど
相島(山口県萩市)	漁協の組合員活動として年一回海浜清掃を実施。ごみ量は不明
見島(山口県萩市)	萩市で実施される河川海岸清掃に合わせて、見島環境衛生推進協議会の主催で毎年7月に島内4箇所の海岸の清掃を実施。軽トラック18台分(刈り草を除く)

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

大島(山口県萩市)	大島:萩市で実施される一斉清掃に合わせて。また、漁協が年2~3回実施。子ども会で夏休み前に1回実施。量は不明。
本島(香川県丸亀市)	毎年、観光客や利用客向けに海水浴場(泊海岸)の清掃活動をしている。小中学校でもクリーン活動を行なっている。
渡鹿野島(三重県志摩市)	毎年、7月頃、海開きのシーズンに合わせてビーチクリーン活動をしている。観光客を受け入れるため。
久賀島(長崎県五島市)	業者に委託して年に1回清掃活動を実施している。
嵯峨ノ島(長崎県五島市)	業者に委託して年に1回清掃活動を実施している。
柁島(長崎県五島市)	業者に委託して年に1回清掃活動を実施している。
男木島(香川県高松市)	瀬戸内芸術祭をきっかけにボランティアの方(こえび隊など)による海岸清掃を実施していただいている。高松市では、各地区の一斉清掃やボランティア清掃等で使用していただける、ボランティア袋及びボランティアシールを配布し、地域清掃の支援をしている。
女木島(香川県高松市)	瀬戸内芸術祭をきっかけにボランティアの方(こえび隊など)による海岸清掃を実施していただいている。高松市では、各地区の一斉清掃やボランティア清掃等で使用していただける、ボランティア袋及びボランティアシールを配布し、地域清掃の支援をしている。
大島(香川県高松市)	瀬戸内芸術祭をきっかけにボランティアの方(こえび隊など)による海岸清掃を実施していただいている。高松市では、各地区の一斉清掃やボランティア清掃等で使用していただける、ボランティア袋及びボランティアシールを配布し、地域清掃の支援をしている。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「はい」とご回答頂いた方へお聞きします。過去年以内に実施された海ごみ清掃活動について、実施時期や主体者や団体、清掃活動の内容や頻度、回収しているごみの量について教えてください。

大島(山口県萩市)	大島:萩市で実施される一斉清掃に合わせて。また、漁協が年2~3回実施。子ども会で夏休み前に1回実施。量は不明。
本島(香川県丸亀市)	毎年、観光客や利用客向けに海水浴場(泊海岸)の清掃活動をしている。小中学校でもクリーン活動を行なっている。
渡鹿野島(三重県志摩市)	毎年、7月頃、海開きのシーズンに合わせてビーチクリーン活動をしている。観光客を受け入れるため。
久賀島(長崎県五島市)	業者に委託して年に1回清掃活動を実施している。
嵯峨ノ島(長崎県五島市)	業者に委託して年に1回清掃活動を実施している。
柁島(長崎県五島市)	業者に委託して年に1回清掃活動を実施している。
男木島(香川県高松市)	瀬戸内芸術祭をきっかけにボランティアの方(こえび隊など)による海岸清掃を実施していただいている。高松市では、各地区の一斉清掃やボランティア清掃等で使用していただける、ボランティア袋及びボランティアシールを配布し、地域清掃の支援をしている。
女木島(香川県高松市)	瀬戸内芸術祭をきっかけにボランティアの方(こえび隊など)による海岸清掃を実施していただいている。高松市では、各地区の一斉清掃やボランティア清掃等で使用していただける、ボランティア袋及びボランティアシールを配布し、地域清掃の支援をしている。
大島(香川県高松市)	瀬戸内芸術祭をきっかけにボランティアの方(こえび隊など)による海岸清掃を実施していただいている。高松市では、各地区の一斉清掃やボランティア清掃等で使用していただける、ボランティア袋及びボランティアシールを配布し、地域清掃の支援をしている。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q1回答>

<Q1自由回答>

「いいえ」とご回答頂いた方へお聞きします。海ごみ清掃活動を実施できていない理由や実施しない理由をお聞かせください。

- コロナ禍以前には年に2回実施、詳細は不明だが下関市と連携して行っていた。ゴミの内容はペットボトルや外国製の青色のタンクなど。タンクは中身が薬剤と思われ、島内では「拾っても開けないように」と言われている。コロナ禍以降は清掃活動を行っても島外の搬出や処分方法が難しいので行っていない。
- ビーチが少なく、漁港が多いため、実施していない。
- やってもきりが無い上に、人手がない
- 以前は漁業組合で島内の漁業組合員の皆様が1年に1度、清掃活動を実施されていましたが、数年前から実施がなくなりました。理由は把握しておりません。
- 県漁協の漁師が漁を行う際に網にかかるゴミを処分しているため、現在のところ島外の協力者等はいません。
- 自治会で必要と考えていない
- 新型コロナウイルスの影響による活動自粛の為
- 人手が足りない、島外搬出が難しい
- 人手は募集すれば集まると思うが、回収したゴミの処理(島外への搬出)に費用がかかり難しい。2016年にクラウドファンディングでゴメ岬の海ごみ清掃をした際は、羽幌本土側の建設会社がほぼ無償で搬出に協力してくれた。
- 定期的にやろうと思っても、変則的な日常や仕組みの弱さによりなかなか続かない現状。
- 費用が足りない、活動にきりが無い、島外搬出が難しい
- 浜辺がなく、崖ばかりのため、一般市民参加型の清掃活動は実施していない。しかし、水産庁が行っている『水産多面的機能発揮対策』として、伊吹島の漁業者団体が主体となって伊吹島における漂流・堆積ごみの回収処理を行っている。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q2回答>

Q2.海ごみ清掃活動に関する悩みや希望で当てはまるものを選んでください(複数選択式)



清掃活動のある島々でも、人手不足や資金不足などさまざまな問題に頭を抱える実態が見えてきた。人手不足の問題では、高齢化により海ごみを拾える住民が不在である島や、コロナ禍によりボランティアの受け入れを中止せざるを得なかった島などがあり、資金不足の問題では、ボランティア受け入れのための交通費の捻出や、島内で処理できないごみの島外搬出費用の負担が重たく、清掃活動を拡大できない島が多くあった。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q2回答>

<Q2自由回答>

海ごみ清掃活動に関する悩みや希望について差し支えない範囲で具体的に教えてください。

- 東日本震災後45～50世帯が減少している。住民も70歳以上の高齢者が7割以上で限界集落である。2～3年後には清掃ができなくなると思われる。
- ①活動場所が島嶼部のため、島への船賃として三浦保愛基金(年間 50万円程度)を活用しているが、毎年申請が必要であり、採択されなければ活動が困難になる。②ごみの回収を松山市役所清掃課に依頼しているが、ゴミ袋に入らないものは回収されない。大型の発泡スチロールビなど回収したくてもできないものがある。
- ゴミの処分方法
- ゴミの量が多くなるとゴミの保管、搬出が難しくなる。 外からのボランティア等募りたいが費用や人手が足りず実施出来ていない。
- ボランティア以外では環境省の補助金を活用し回収・処理しているが、四方を海に囲まれた離島では漂着ごみが大量に打ち上げられるので、補助金の増額を要望する。
- 可燃ごみ(流木など)については焼却するものの、他のプラスチックごみなどの処分能力が低い為島外搬出しているが、頻度や内容物の確認などで時間がかかり、その間野ざらしにされてしまう。また費用も掛かる
- 回収された海ごみは全て母島の清掃工場に持ち込まれるが、フレコンバッグで年間 130～150個 程度となる。搬出するにも国や東京都との費用負担面等を考慮し頻繁に出すことができないため、場内ストックヤードが常時溢れているような状態である。頻繁に島外搬出できるよう、 国・東京都の費用負担の拡充が必要である。
- 回収したごみのうち、燃やせるものは島内で焼却している。産業廃棄物など燃やせないものは、前出の NPO法人メンバーが善意で島外に搬出し処分してくれているが、いつまでも頼ることはできないと考えている。(行政の支援などを希望)
- 回収したごみの処分には、島外搬出料なども含めて多額の処分費が発生しますので、島民の生活環境に影響を及ぼす部分を優先的に行っています。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q2回答>

<Q2自由回答>

海ごみ清掃活動に関する悩みや希望について差し支えない範囲で具体的に教えてください。

- 回収したごみの処分の方法
- 回収したとしてもまたすぐに流れ着く。きりが無い。
- 回収した海ごみの島外搬出の難しさに対する支援
- 海ごみの多くを占める発泡スチロール製品は海水を含んでおり、業者に回収してもらえない。
- 海ごみは常に漂着、漂流、堆積しているが、過疎化・高齢化により参加可能な人間が減少傾向にある。
- 外国ゴミ、漁業ブイの漂着が多すぎる。作業員の高齢化が進んでいる。
- 継続的かつ組織的にやりたいと思ってもなかなかできていない。
- 現在人口7名、みんな70代前後で高齢者であり、病気などもあって家周辺を草刈りするのが精いっぱい人手が足りていない
- 個人や団体が協力が得られても、島内で処分できないことや、重機で港まで運搬ができないことから、地域の方の協力が必要な状況などから、受け入れ態勢が整備されていない。
- 高齢化により地域住民による清掃活動はむずかしい。瀬戸芸をきっかけにボランティアで島内清掃をしていただいている。市としては清掃に必要な道具の支援や回収を行うほか、活動を継続するために団体を育てていくことが大切だと思っている。各島のコミュニティセンターと連携していきたい。
- 豪雨や災害などが起こった際の大きな漂流ゴミは重機がないと回収、処理ができない。
- 参加している住民はボランティア活動になるが、日当など手当があればいいね、という声を聞いたことはある。
- 児童生徒を中心とした活動なので、安全を第1に活動している
- 都市部でゴミの管理をしっかり行ってほしい。 マイクロプラスチックになる前に利用者が処分することが大切。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q2回答>

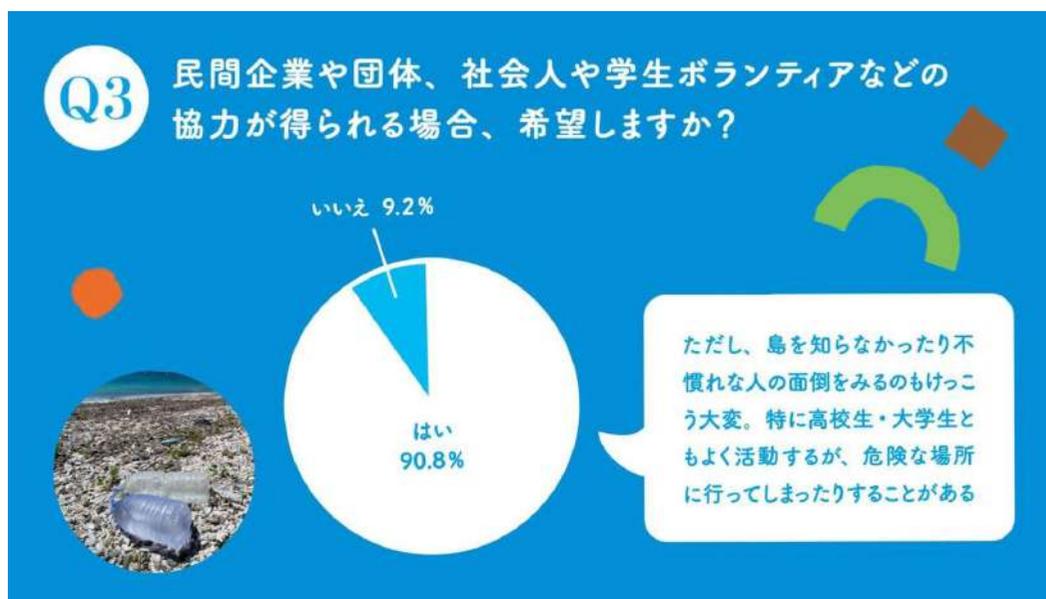
<Q2自由回答>

海ごみ清掃活動に関する悩みや希望について差し支えない範囲で具体的に教えてください。

- 収集した海ごみは処理施設へ自己搬入する必要がある。市の処理施設へ無料で持ち込みが可能であるが、運搬する車両の確保、フェリー料金などは、運搬する側で用意している。また、島内の家庭ごみの収集と運搬は民間業者が実施しているため、費用の面で業者に運搬を依頼することは難しい。
- 住民の高齢化が進み、参加者が減少気味である。
- 少子高齢化の島ではあるが、一度の活動に40名は出て来てくれるので、今のところ人ではまだ大丈夫だが、5、6年後が心配。梅雨時になると、近隣のゴミが湾内にも流れて来て、収集してもきりが無い状態。
- 新型コロナウイルスの影響によるリスクを考慮するもの
- 人口減少のため作業ができる人数が減っている。
- 清掃できるゴミよりも流れ着くゴミが多すぎる
- 西側が海で、台風や季節風(秋)のとき、大量に漂着ゴミが打ちあがる。
- 地島は、フェリー運航が月に2回しかないため、ゴミの搬出が困難であり、また、人口減少や高齢化により、大規模な清掃がなかなか実施できない。
- 島内の団体、公民館だけでは人材不足で限界。行政が年間を通しての仕事としてくれれば、雇用にもつながるのだが...
- 島民の人口減少と高齢化により人手不足となっている。また、海流や地形の影響で翌日には浜にごみが多く漂着しており、きりが無い。石の多い浜もあり、小さなごみが石と石の間に入り込み収集が難しい箇所もある。
- 当団体の場合、海浜海中清掃活動に熱心なのは地域外の「海を愛する人達」です。清掃活動というボランティア活動で労力を使って頂く上に、さらに島までの旅費がかかるのを非常に心苦しく思います。なので上記の回答は「費用が足りない」となります。
- 漂着ごみは秋から冬にかけて北風が強い時。島内の住民や観光客が捨てたものではなく、島外から流れつくもので毎年清掃しても又流れて来てきりが無い。

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q3回答>

Q3.海ごみ清掃活動を今後拡大したいですか？



海洋ごみの清掃活動の拡大については、7割弱の島が拡大を希望。そのうち9割が、民間企業や団体、社会人や学生ボランティアなどによる協力を希望した。

<来島者による協力の例>

●来島した観光客が、久高島離島振興総合センターでゴミ袋をもらい、海岸やその付近のゴミ拾いを行う。ゴミを拾いながら海岸から上がると道があるので、ゴミが溜まったら道においておくと島内の役員や委託された人がゴミを回収し仕分け、沖縄県南城市に搬出する

●黒島(沖縄県竹富町)においては、回収ステーションを海岸に設置し、いつでも誰でも漂着物を回収できるよう取り組みを行っている。分別表を作成する等、ボランティア団体が管理を行っている

●伊吹島(香川県観音寺市)は浜辺がなく崖ばかりのため、一般市民参加型の清掃活動は実施していないが、水産庁の「水産多面的機能発揮対策」として、伊吹島の漁業者団体が主体となって伊吹島における漂流・堆積ごみの回収処理を行っている

●前島(岡山県瀬戸内市)では牛窓ウォータートレイルのエコロジーディスカウントとして、ツアー参加者がゴミ拾いするとツアー料金から300円引きしている

●愛媛県松山市の離島(二神島、野忽那島、中島、興居島、釣島)ではNPO団体松山北高校興居島ボランティアチームが主催、企画し、島嶼部での海岸清掃活動や定期的な海岸状況調査を実施

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q4回答>

Q4.海ごみ清掃活動に関して、悩みや希望、コメント等がございましたらご記入ください(自由記述)

- ボランティア以外では環境省の補助金を活用し回収・処理しているが、四方を海に囲まれた離島では漂着ごみが大量に打ち上げられるので、補助金の増額を要望する
- ごみが増えたのはここ25年程、ごみを無くしたいので一緒に清掃してくれる人がいればありがたい
- きりが無い。清掃しても2週間で元に戻る。国や県にもっと力を入れてほしい。1年間通しての仕事として事業化してほしい。雇用環境ができれば移住定住にもつながります
- 島内での海ごみ清掃活動は、地域住民の自主的な活動により実施しているが、ごみの運搬面における課題もあり、対処に苦心している。今後も地域での活動を継続させてゆくことと合わせて、行政、とりわけ海を管理する県がもっと主体的に対策を実施することで、より効果的な清掃活動が期待できるものとする
- 島内の浜は広いので、島内だけで行うには人手が足りないし、搬出まで一緒にやってもらえると助かります
- 沖縄県竹富町では現在、漂着物は各島々から石垣島の処分業者に処分をお願いしていますが、活動にきりがなく、いつ限界を迎えてもおかしくない状況。埋め立て処分しかできない現状ではいつの日かごみの島になってしまう。再資源化に係る施設整備等まで今後を見据えた取り組みが必要だと考える。市町村だけでなく、国も一緒になって取り組んでいただきたい
- 収集した海ごみは処理施設へ自己搬入する必要がある。市の処理施設へ無料で持ち込みが可能であるが、運搬する車両の確保、フェリー料金などは、運搬する側で用意している。また、島内の家庭ごみの収集と運搬は民間業者が実施しているため、費用の面で業者に運搬を依頼することが難しい
- 毎年同じ量またはそれ以上が漂着しきりが無い状況。島外に搬出するため多額の支出となる
- 産業廃棄物など燃やせないものの島外搬出と処分に苦慮している
- 海ごみを回収して運搬する場合、地元の船を使用しており費用負担が大きい。また、海ごみを回収する業者がない
- ボランティアに来てもらえるのはありがたいがごみの搬出は住民が行うので、ボランティアの方にせっかく集めてもらっても処分に時間を取られるのが課題
- 漂着ごみのうち島内処理困難物を島外搬出・処理したいが、受入れ先が見つからない

1)小規模離島地域における環境保全活動の実態調査 <Q4回答>

Q4.海ごみ清掃活動に関して、悩みや希望、コメント等がございましたらご記入ください(自由記述)

- 漁協組合員及び島民全員が行うのが基本。高齢化が進み人手不足。分別に時間を要す。漁に出ることができないので水揚げが下がる
- 人工物は極力回収したいが人力では難しい
- 1人1人の意識や行動がごみの量を減らすため、必要のないものを買わない、ものを長く大切に使うなどの「リデュース」を心掛けるように変わらないと、ごみの削減は難しいと感じる
- 干満によって1日に2回運ばれてくる漂着ごみ。清掃するにも荒天や雨天だけではなく猛暑の日もあります。継続した粘り強い活動が必要な課題で、克服は不可能と考えます。全てのごみは海を最終駅(ターミナル)としているのですから、地上ごみをゼロにする事が目標となるでしょう
- 海ごみの処理には多くの費用や手間がかかりますが、しっかりと本土側の人にも実情を知っていただき、環境学習になる様なボランティア活動が組めればいいなと感じています
- どれだけごみを片付けてもキリがないので、根本的な仕組みづくりや政策が必要だと考える。(ごみを拾った人にメリットがある、換金できるなど ...)ボランティアや善意には限度があり、多くの人拾いたくなる原動力が必要
- 観光客等から海ごみについての指摘を受けることがあり、対処せねばという思いはある
- 回収しても新たにごみが海岸に漂着し、すぐに景観悪化を引き起こしている。また、本事業の財源は国庫補助に頼っており、国庫補助が継続されなくなると、本事業の実施が困難となる
- キリはないですが、いつの間にかごみに慣れてしまわないように、当たり前と思ってしまわないように、拾い続けるんだという意味は持ち続けたい
- 人口が減り、高齢化が進み、作業できる人が限られ、いろんな作業が難しくなっている
- 海岸の清掃については、まずは島民の生活環境に影響を及ぼす部分を最優先で行いますので、生活範囲外にある海岸等については、後回しにせざるを得ない状況
- 島の浜にあるごみは島内で発生したごみではなく、他の地域から潮にのって着いたものがほとんどで、元を絶たないと解決にはならない
- 生まれ育った島を綺麗にしたいという思いが原動力となってボランティア清掃を行っているが、その思いを担う後継者がいない状態。自分たちだけで終わらせないためにも、協力してくれる関係者を増やし、後継者育成もできればと思っている

2) 小規模離島地域の現地調査 | 山形県酒田市 飛島



島名: 飛島(とびしま)
 自治体: 山形県酒田市
 人口: 158人(2020年国勢調査)
 年齢比: 0~14歳:1% / 15~64歳:33% / 65歳~:66% (2015国勢調査)
 面積: 2.75 km²
 周囲: 12km
 アクセス: 酒田港より定期船(1~4便/日)75分
 主要産業: 水産業

20年におよぶ海洋ごみとの戦いで関係人口やアイデアが生まれた飛島

人口約170名の飛島では、かつて海岸線に4メートルもの海洋ごみが堆積したことをきっかけに、島外と連携した「飛島クリーンアップ大作戦」をスタート。特筆すべきは海洋ごみ問題が島に関係人口を生むきっかけにもなっていることだ。クリーンアップ大作戦の運営や参加をきっかけに移住者やリピーターとなった人も少なくない。2022年には、本土側の企業や高専と共に開発した海ごみ運搬ロボットの実証実験も行われるなど、注目すべきアイデアも次々に生まれている(調査協力: 合同会社とびしま担当者)

海ごみの実態	西海岸の一部には季節風の影響により多量のごみが漂着する。かつては1.5メートル余りの魚網類やプラスチックごみが堆積。大規模な清掃活動により堆積した漂着ごみは減ったが、現在もごみの漂着は続いている。
清掃活動の状況や回収量	2001年に山形県及び酒田市の主催により「飛島クリーンアップ作戦」が開始され、翌年からNPO法人が事務局を担いながら現在まで継続している。参加者は県内外のボランティア。200名規模で漂着ごみの回収作業を実施。コロナ禍や台風襲来等により開催を見合わせた年度を除いては毎年開催されている。「飛島クリーンアップ作戦」におけるごみの回収量は年度によって異なるが、1~6トン进行回収。山形県の調査では飛島の海岸線に年間6.5トンが漂着していると推定されている。
ごみの保管・運搬・処理	回収されたごみは島内に仮置きされた後に酒田市本土側に運搬・処分される。
費用や財源	「飛島クリーンアップ作戦」では参加者から費用を徴収している。加えて、第5回より各種助成金を確保し、第7回からは民放テレビ局のチャリティ番組からの資材購入費や渡航費等の支援を受けている。

2) 小規模離島地域の現地調査 | 宮城県石巻市 網地島



島名: 網地島(あじしま)
 自治体: 宮城県石巻市
 人口: 247人(2020年国勢調査)
 年齢比: 0~14歳:1% / 15~64歳:25% / 65歳~:74% (2015国勢調査)
 面積: 6.49 km²
 周囲: 20.7km
 アクセス: 石巻港より定期船(3~4便/日)
 54~82分
 主要産業: 水産業

行政の支援不足が問われる高齢化が進む島の海岸清掃

東日本大震災の復興時にも行政による対応の遅れが指摘された網地島では、海洋ごみ対策においても対応不足が問われている。現在、住民による海岸や地域内の草刈り等の清掃は有償ボランティアとされているが、高齢化が進む島では人員も集まりにくい。島外からのボランティア受け入れも行っているが、ボランティアのお世話が必要な場合は受け皿が不足することから継続が難しい。島にはもともと、生活環境を良くするため自主的に活動する住民が多かったことから、行政側からは「島側でできる」という認識を持たれやすく、行政担当者の人事異動により改善が進みにくい(調査協力: 網地島行政区域長)

海ごみの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季にペットボトルのほか、漁具や漁網が流れ着く ・2011年の東日本大震災時には流木や瓦礫が浜を埋め尽くした
清掃活動の状況や回収量	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動は網地島の住民を中心に、毎年7月、海開きの前に1回実施している ・以前は、清掃活動を実施する際、各世帯1名は参加するなどのノルマがあったが、現在は有料ボランティアに移行。参加した住民に対して行政区から人件費を払っている。高齢化もあり、有償の活動にしないと人員が集まらない状況 ・地元の中学生(鮎川中学校)や、ボランティアの大学生が参加してくれることもあるが、ボランティアに来てくれる人たちのお世話(清掃用具や飲みもの、食事等の準備)が島側で必要になってくるため、島側でお世話にあたる人員が手配できず困ってしまうことがある
ごみの保管・運搬・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ごみをはじめ、島で回収したごみは本土に搬出して処理を行う ・牡鹿半島地区でごみの処分を請け負う業者が、島内に常駐しており、ごみの回収や保管、運搬を行う。本土への搬出は月に1回程度
費用や財源	<ul style="list-style-type: none"> ・浜の清掃にかかる費用について、最低限の予算しかついておらず、行政区の予算から費用を捻出している ・海ごみ以外でも、島ではリサイクル家電の処分が難しく、5年ほど前に行政区で船をチャーターして島内で使えなくなった家電をまとめて本土側に搬出した

2) 小規模離島地域の現地調査 | 三重県鳥羽市 菅島



島名: 菅島(すがしま)
 自治体: 三重県鳥羽市
 人口: 455人(2020国勢調査)
 年齢比: 0~14歳:9% / 15~64歳:53% /
 65歳~:37% (2015国勢調査)
 面積: 4.41 km²
 周囲: 13km
 アクセス: 佐田浜港より定期船(8便/日)13分
 主要産業: 水産業

本土側から流れ込むごみも多い伊勢湾の実情を伝えられる環境学習も検討

普段は町内会や地元漁協、学校運営協議会などが清掃活動を実施する菅島。流木などの大型ごみは1983年に菅島でおきた事故をきっかけに縁が続く自衛隊小牧基地が回収・処理を手伝う。悩みは海藻等に付着する付着するマイクロプラスチックの増加や、ごみの増加により保管や搬出が難しくなること。伊勢湾に浮かぶ菅島には、愛知・岐阜・三重の河川から流れ出たごみも多いため、本土側の人々に実情を伝えられるよう環境学習になるボランティア活動の受け入れも検討している(調査協力: 鳥羽市役所担当者)

海ごみの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・台風通過後に愛知や岐阜、三重各県の河川を通じて流木が流れ着く ・流木が港内に入ると定期船の運行に影響が出る場合がある
清掃活動の状況や回収量	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年7月に実施されるしろご祭りの1週間前に、菅島漁協が主催し町内各団体参加して清掃活動を実施。軽トラ10台分ほどのごみが回収される。 ・そのほか、不定期でコミュニティスクールのや町内会の活動で清掃活動を行う。
ごみの保管・運搬・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・回収したごみは、生活ごみと同様に本土へ搬出して処理するほか、地元で燃やして処理するものもあり、処理方法は今後の課題。 ・特に大きな流木は処理が困難なため、暖をとるために燃やして使用することもある。
費用や財源	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、ごみの量が多くなると保管や搬出が難しくなる。島外のボランティア等を募りたいが、費用や準備のための人手が足りず実施出来ていない。

2) 小規模離島地域の現地調査 | 香川県土庄町 千振島 ※無人離島



「ゆるく長く楽しく」続けたい有志が集い町内の無人島を清掃

小豆島土庄町では10人弱が集う有志団体ハートフルゴレンジャーが、町内の無人島清掃を行っている。牡蠣養殖に使われるパイプや発泡スチロール、ペットボトルなどが漂着し、1回の清掃で多い時には20袋(90リットルのごみ袋)ほどを回収。活動には個人所有の漁船が使われ、参加者から徴収する参加費1,500円を昼食代や船舶のガソリン代に当てられる。主催者はこうした活動が長く続くよう、無理なく楽しく続けることを目指している(調査協力:土庄町役場担当者・住民団体代表者)



島名:千振島(ちぶりじま)
 自治体:香川県土庄町
 人口:0人 ※無人離島
 年齢比:-
 面積:0.09 km²
 周囲:-
 アクセス:定期航路なし
 主要産業:-

海ごみの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・主に台風通過後、岡山方面から流れて来るごみが多いカキ棚のジョイント部品や発泡スチロール、ペットボトル、ライター、瓶など様々な種類のごみが流れ着く
清掃活動の状況や回収量	<ul style="list-style-type: none"> ・小豆島土庄町四海地区出身者が主催し、「ゆるく長く楽しく」活動を続けられるように、参加者を固定せず日程が合うメンバーや口コミで活動を知った方々が参加。毎回、6~10名前後が参加している ・カキ棚のジョイント、発泡スチロール、ペットボトル、ライター、瓶等、有機物以外は可能な限り回収し、多い時には90Lの袋で20袋程を回収する。 ・そのほか、明らかに島で繁殖するはずのないサボテンは、可能な範囲で切ったり根を掘り起こして回収する
ごみの保管・運搬・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・回収したごみは土庄町小江地区のゴミステーションに保管する ・その後、可燃ごみについては町役場が回収し、小豆島内のクリーンセンターで焼却。不燃ごみは町と委託している産廃業者が回収して島外へ搬出する
費用や財源	<ul style="list-style-type: none"> ・土庄町としては今のところ清掃などを行うボランティア団体に対し助成金は準備しておらず今後についても未定 ・一方、ボランティア団体が清掃活動に使用するごみの回収袋を、地元の企業から提供してもらっている。一例として、ごま油製造を行う企業はゴマが入っていたナイロン製の袋(90L程の容量)や、素麺組合からは、原材料である小麦粉が入っていた袋を提供してもらっている

2) 小規模離島地域の現地調査 | 愛媛県上島町 魚島



島名: 魚島(うおしま)
 自治体: 愛媛県上島町
 人口: 138人(2020年国勢調査)
 年齢比: 0~14歳:6% / 15~64歳:52% /
 65歳~:42% (2015国勢調査)
 面積: 1.36 km²
 周囲: 6.5km
 アクセス: 土生港より定期船(4便/日)60分
 主要産業: 水産業

住民による清掃活動は行われるが処理困難物が置いたままに

魚島では役場や地元漁協の若手を中心に活動する元気な島づくり実行委員会をはじめ、教育振興会ほか島内の各団体が清掃活動を行っている。目立つごみは発砲スチロール、ペットボトル、空き缶、袋類、流木などで、台風通過後は特に多くのごみが集まる。島内のごみは週1回、上島町の委託業者が弓削島まで運搬しているが、大きな流木や家電などは魚島クリーンセンターの敷地などに置いたままになっている(調査協力: 上島町役場魚島支所担当者)

海ごみの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・台風通過後には非常に多く、発砲スチロール、ペットボトル、空き缶、袋類、流木などが流れ着く ・流木等が港に流れ着いた場合、定期便の運航に支障が出ることから、台風通過後や風が強く吹く冬季は注意している
清掃活動の状況や回収量	<ul style="list-style-type: none"> ・役場や漁協の若手などから組織される元気な島づくり実行委員会や教育振興会などが中心に、夏の観光シーズン前や行事前などに、集落へ案内を出して清掃をする。年にもよるがごみ袋30袋分ほどを回収している ・人口減少に伴い、活動は役場や漁協の若手が中心になっている
ごみの保管・運搬・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・回収後は島内の決められた場所(クリーンセンター)で、生活ごみと同様に保管する。その後、週に一度、上島町から業務委託を受けた企業によって、町内の弓削島まで搬出し、処理を行っている ・一方、大きな流木(回収が困難なものは浜に置いたままになっている)や家電等は、クリーンセンターの敷地に置いたままになっている
費用や財源	<ul style="list-style-type: none"> ・町の活動として行っており、参加者への謝礼や活動への助成等は実施していない ・人口減少のため、年々、作業ができる人数が減っている。作業できる人の確保が課題

2) 小規模離島地域の現地調査 | 愛媛県上島町 高井神島



島名: 高井神島(たかいかみしま)
 自治体: 愛媛県上島町
 人口: 11人(2020年国勢調査)
 年齢比: 0~14歳:0% / 15~64歳:35% /
 65歳~:65% (2015国勢調査)
 面積: 1.34 km²
 周囲: 5.3km
 アクセス: 土生港より定期船(4便/日)45分
 主要産業:

海洋ごみ清掃まで手が回らない高齢化率の高い7人の島

冬季には北風の影響でペットボトルや流木が集まるという高井神島では、毎年、弓削商船高専の生徒が海岸清掃に訪れる。ほかにも、愛媛県内のボランティアグループも清掃に来ていたが、コロナ禍で激減。高齢化率も高く、わずか7人の住民では海洋ごみの清掃まで手が回らない状況にある。2023年度に高井神小中学校が廃校となることから、同施設を島の関係人口が集える場とできないかと期待されている(調査協力:高井神島区長)

海ごみの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・台風通過後や冬季には発砲スチロールやペットボトル流木などが流れ着くが、島内に浜は少なく、浜は住民が生活している集落から少し離れているため、日常的な清掃活動は実施していない
清掃活動の状況や回収量	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、1回、弓削島にある国立弓削商船高等専門学校の生徒が親睦を深める目的も含め、港の西側にある浜の清掃を実施している。また、コロナ禍以前は愛媛県内のボランティアグループが清掃に来てくれていたこともあったが、近年は実施されていない ・現状、住民が7名になり、高齢化もあって、自分の身の回りのことをやることで精一杯で、浜や地域の清掃まで手が回っていない
ごみの保管・運搬・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ごみの回収場所と同様、港の奥にある空き地でコンテナに積んでいき、定期的に弓削島に搬出、処理を行っている ・魚島と同様、大きな流木や家電等は、コンテナの脇の敷地に置いたままになっている
費用や財源	<ul style="list-style-type: none"> ・弓削商船高等専門学校の清掃活動は学校主体で実施しており、行政のサポートはほとんどない ・令和5年度、休校中だった高井神小中学校が休校から廃校になることから、施設を島外の人が集えるよう活用していく計画がある

2) 小規模離島地域の現地調査 | 山口県周防大島町 浮島



島名: 浮島(うかしま)
 自治体: 山口県周防大島町
 人口: 180人(2020年国勢調査)
 年齢比: 0~14歳: 9% / 15~64歳: 44% / 65歳~: 47% (2015国勢調査)
 面積: 2.27 km²
 周囲: 6.8km
 アクセス: 日前港より定期船(4便/日)30分
 主要産業: 水産業

漁協が底引き網で海ごみを回収し、仕分けは青年部がボランティアで担当

水産業が盛んな浮島では山口県漁業協同組合浮島支店(以下、漁協)が中心となり、底引き網での海底清掃を行っている。引き上げられるごみは、可燃物や金属、発泡スチロール、タイヤ、自転車など多岐に渡り、年2~3回の活動でフレキシブルコンテナバッグ50袋以上が回収される。回収・運搬費用は町の予算になるが、手作業でごみを仕分ける作業は漁協青年部がボランティアで行っている。活動予算も常態的に不足しているのが現状だ(調査協力: 山口県漁業協同組合浮島支店担当者)

海ごみの実態	・回収されるごみは、可燃物や金属、発泡スチロール、タイヤ、自転車など多岐にわたる
清掃活動の状況や回収量	・漁協が中心となり、海洋漂着物や漂流物などの回収活動を実施している。2019年~2021年の3年間では、年間でフレキシブルコンテナバッグ 50袋以上のごみが回収されている。また、2年に一度、底引き網での海底清掃活動を実施している
ごみの保管・運搬・処理	・島内の江ノ浦地区と樽見地区の2地区に回収ボックスを設置しており、引き上げたごみを仕分けて保管している ・回収ボックスに溜まったごみは、漁協青年部がボランティアで仕分け作業を行ったうえで、年間2~3回に分けて周防大島町本島側の土居港まで船で運び、そこから先は町から業務を請け負っている事業者が処理施設へ運搬する
費用や財源	・ごみ回収や運搬費用は周防大島町の予算が充てられるが、予算で足りない部分については漁協負担となる。予算を超えてしまう場合、残った海ごみの回収については翌年度に持ち越している ・手作業でごみを仕分ける作業は漁協青年部がボランティアで行っているが、活動予算が常態的に不足している。金属がついた網など、仕分けに時間がかかるごみが多く、手間が多い



企業と連携した清掃活動をきっかけに外部との連携ニーズが高まる

地島では地元漁協や区長、学校長などで組織される元気な地島づくり協議会が中心となり、海岸清掃が行われている。漂着ごみには国内外のペットボトルや家庭ごみ、発泡スチロールや漁具が目立つ。悩みは回収したごみを運搬できるフェリーの運航が月2回に限られるため、ごみの搬出が難しいこと。2022年には湖池屋と連携した大規模な清掃活動を実施し、130人体制で計2トン回収。この実績を受け、島内では外部と連携した中規模な清掃活動のニーズが高まっている(調査協力:宗像市元気な島づくり課担当者)

島名:地島(じのしま)
 自治体:福岡県宗像市
 人口:122人(2020年国勢調査)
 年齢比:0~14歳:8% / 15~64歳:43% / 65歳~:49%(2015国勢調査)
 面積:1.62 km²
 周囲:9.3km
 アクセス:神湊港より定期船(6便/日) 15~30分
 主要産業:水産業

海ごみの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・1年中ごみは漂着するが、特に台風通過後や風と波が強い日の後に多くのごみが見られる。場所は島内泊地区や白浜地区の海岸沿いによく流れ着いている ・国内/海外のペットボトルや家庭ごみ、発泡スチロール、漁具など
清掃活動の状況や回収量	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な地島づくり協議会(漁協や各地区長、学校長など 13名から組織される)が中心となり、年に2回、浜辺の海ごみ清掃を実施している ・2022年4月、株式会社湖池屋主催の海ごみ清掃活動を実施。130人ほどが活動に参加し、2トントラック4台分の海ごみが回収された ・近隣大学の大学生や企業の従業員等が清掃活動に参加してくれているが、継続的な活動実施のための人手や費用が不足している
ごみの保管・運搬・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを搬出するフェリーの運航が月に2回しかないため、回収したごみの保管、搬出が困難な状況にある
費用や財源	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の人口減少や高齢化のため、清掃活動を行う人材確保が難しく、大規模な清掃活動がなかなか実施できていない。2022年に実施した清掃活動をきっかけに、島外企業等との連携をはかり、清掃活動に不足している人材や費用を補っていきたい

2) 小規模離島地域の現地調査 | 長崎県長崎市 高島



島名: 高島(たかしま)
 自治体: 長崎県長崎市
 人口: 324人(2020国勢調査)
 年齢比: 0~14歳:5% / 15~64歳:44% / 65歳~:51% (2015国勢調査)
 面積: 1.23 km²
 周囲: 8.9km
 アクセス: 長崎港より定期船(8便/日)40分
 主要産業: 水産業、農業

シュノーケリングピクニックで年間1,000人以上が海洋ごみを回収

ペットボトルや海外からの漂着ごみが多くみられる高島では、市民活動団体「やったろうde高島」や高島振興協同組合が海水浴場の清掃活動を実施。やったろうde高島では、4~10月に多種類の珊瑚や熱帯魚などを楽しめる「シュノーケリングピクニック」を実施。昨年は年間1,669人、のべ1万人以上が参加している。リピーターも多いという参加者は福岡県をはじめ県外が多く、長崎市内の小・中学生の体験・研修先として選ばれている(調査協力: 市民活動団体やったろうde高島担当者)

海ごみの実態	・主に島北部の海水浴場(北向きに開いている湾)では、冬の期間を中心にごみが漂着している。回収される海ごみは、ペットボトルや海外からの漂着ごみなど
清掃活動の状況や回収量	・夏の海水浴時期(7月中旬~8月)のおよそ40日間は、長崎市から海水浴場の管理委託を受けた団体(高島振興協同組合)が清掃をしている ・市民活動団体「やったろう de 高島」では、海水浴場の自然景観を活かした「シュノーケリングピクニック」を実施しており、多種類の珊瑚や熱帯魚などを楽しめる景観を損なわないため、島内や島外(県外者も多数)の体験者の協力を得て、年間 55袋程度の海ごみを回収、環境保全の意識を啓蒙する人数は毎年 1000人以上にのぼる
ごみの保管・運搬・処理	・生活ごみと同様、回収したごみは、週 2回、長崎市内に搬出して処理している。
費用や財源	・海ごみを拾う活動、清掃活動に主眼を置いた場合、継続した活動につなげることが難しく、やったろう de 高島では、海水浴場の身近にある多種類の珊瑚や熱帯魚を見られる景観という資源を活かして、楽しみながらごみ拾いを行うという体験を提供している ・ごみ拾いをする中で、「シュノーケリングピクニック」を無料体験できるポイントを付与しており、参加者にはリピーターも多い

2) 小規模離島地域の現地調査 | 沖縄県伊平屋村 野甫島・伊平屋島



島名: 野甫島(のほじま) / 伊平屋島(いへやじま)
 自治体: 沖縄県伊平屋村
 人口: 86人(野甫島) / 1,040人(伊平屋島)
 年齢比: 0~14歳:23% | 19% / 15~64歳:62% | 54% /
 65歳~:15% | 27% (野甫島 | 伊平屋島)
 面積: 1.08 km²(野甫島) / 20.66 km²(伊平屋島)
 周囲: 42.9 km(野甫島の周囲を含む)
 アクセス: 運天港よりフェリー(2便/日)80分
 主要産業: 水産業、農業

村が負担する海洋ごみの一部に環境協力税(入島税)を活用

人口90人の野甫島の海岸清掃は、橋でつながる伊平屋島と合わせて伊平屋村が担っている。海岸清掃には国の補助(8割)を活用し、処理・運搬にも補助(9割)を活用している。回収される漂着ごみ(年間50トン以上)は産業廃棄物として取り扱われ、すべてが沖縄本島へ搬出・処理される。村負担となる費用には旅客船などで伊平屋村に入域する際に徴収される環境協力税100円(※)の一部を活用。子どもを含む島内のボランティア活動も行われているが、人材不足が目下の悩み。※障害者、高校生以下は課税免除(調査協力:伊平屋村役場担当者)

海ごみの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみは通年漂着しているが、11月頃が最も多い ・最も多いごみはペットボトル
清掃活動の状況や回収量	<ul style="list-style-type: none"> ・拾う海岸に番号をつけ全16カ所で回収作業を実施(内、野甫島2カ所、伊平屋島14カ所)。野甫島~伊平屋島の全体で海岸延長は約24km。清掃活動を行えている海岸延長は1,745m ・回収作業は1~2月に集中して行い、それ以外では1~2カ月に一度行っている(年間の回収量は50トン以上) ・村の清掃活動は建設業協会に委託して実施。民間では、子ども育成会、中学校の部活などによるごみ拾いも行われている。基本的には島民が行っており、たまに企業研修等でのごみ拾いも行われているが回収量はわずか。
ごみの保管・運搬・処理	<ul style="list-style-type: none"> ・回収した海洋ごみはすべて沖縄本島に搬出・処理。 ・前泊港に隣接した仮置き場に置いているが、搬出作業には県の補助金活用の決裁を待つ必要があるため、満杯の状態
費用や財源	<ul style="list-style-type: none"> ・一括交付金を活用。観光地のイメージアップとして除草作業と合わせて島内の団体に依頼。もとは除草作業だけだったが、観光客からのニーズもあり海洋ごみの回収がスタートした ・運搬費と処理は沖縄県の海岸漂着ごみの補助(9割)を利用 ・村負担となる部分には環境協力税を活用 ・課題は人材確保。村が雇用するにもシルバー人材が多く雇用が難しくなっている

3) 調査報告の公開

3-1 有人離島専門メディア『ritokei』(ウェブサイト)での調査報告公開

実施した調査結果をウェブメディアにて公開。閲覧数4万(2022年7月～2023年累計)

▼2022年10月1日 <https://ritokei.com/shizen/26972>
人手が足りない！資金が足りない！キリがない！人口500人以下小規模離島の「海ごみ」問題を考える【その1】

▼2022年10月10日 <https://ritokei.com/shizen/28963>
人手が足りない！資金が足りない！キリがない！人口500人以下小規模離島の「海ごみ」問題を考える【その2】

▼2022年10月20日 <https://ritokei.com/shizen/28966>
人手が足りない！資金が足りない！キリがない！人口500人以下小規模離島の「海ごみ」問題を考える【その3】

▼2022年10月30日 <https://ritokei.com/shizen/28968>
人手が足りない！資金が足りない！キリがない！人口500人以下小規模離島の「海ごみ」問題を考える【その4】

▼2022年11月14日 <https://ritokei.org/2022/11/14/2022-11-14info/>
リトケイと考える小さな島の海ごみ問題「小規模離島の海ごみ問題を考える会」オンライン勉強会を開催します

▼2022年11月18日 <https://ritokei.com/shizen/27291>
リトケイと考える小さな島の海ごみ問題「小規模離島の海ごみ問題を考える会」に参加しませんか？

▼2022年12月14日 <https://ritokei.org/2022/12/14/2022-12-14-info/>
有人離島専門メディア「リトケイ」の読者と考える小さな島の海洋ごみ問題「小規模離島の海ごみ問題を考える勉強会」を開催しました！

▼2023年1月10日 https://ritokei.com/pickup/umigomi101_plus_10
小さな島の海洋ごみ問題101島+10地域調査で見えてきたこと【特集 | ごみについて考えよう】(前編)

▼2023年1月15日 https://ritokei.com/pickup/umigomi101_plus_10_2
小さな島の海洋ごみ問題101島+10地域調査で見えてきたこと【特集 | ごみについて考えよう】(後編)

▼2023年1月20日 <https://ritokei.com/pickup/umigomibenkyoukai>
【島Report】知恵を共有してヒントを探そう！「小規模離島の海ごみ問題を考える勉強会」(前編)

▼2023年1月30日 https://ritokei.com/pickup/umigomibenkyoukai_2
【島Report】知恵を共有してヒントを探そう！「小規模離島の海ごみ問題を考える勉強会」(後編)

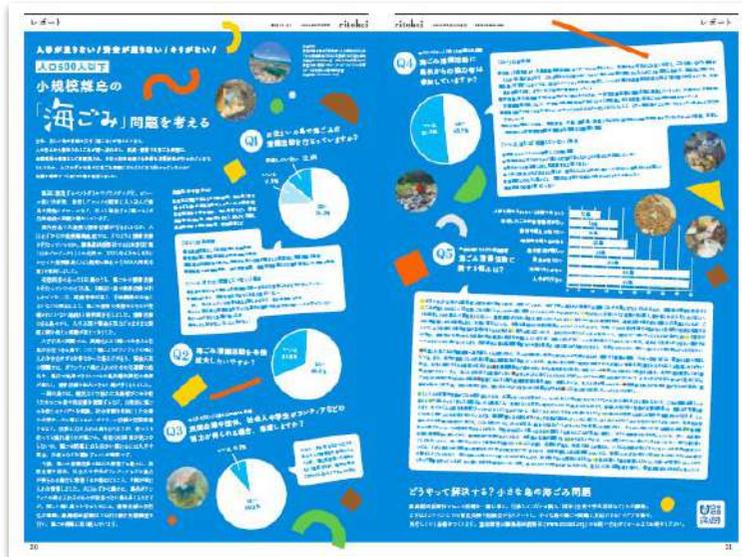
▼2023年3月30日 https://ritokei.org/2023/03/30/umigomi_repo/
小規模離島の海洋ごみ問題についての調査レポート・実施報告書を公開しました



3) 調査報告の公開

3-2 有人離島専門メディア『季刊ritokei』(フリーペーパー)での調査報告公開

調査結果を有人離島専門メディア『ritokei』フリーペーパーに掲載した。



<掲載紙>

- 2022年8月25日発行(2ページ掲載) 1.43万部
- 2022年11月15日発行(1ページ掲載) 1.5万部
- 2023年2月27日発行(2ページ掲載) 1.8万部

<配布先>

- 177島 本土192市区町村 1,203カ所
- ※設置場所詳細 <https://ritokei.com/kitanritokei/location>
- ※目標部数6万部としていましたが、コロナ禍により設置力所が閉店等の影響により部数増加が図れず、4.73万部となりました



4) 環境保全活動の支援活動

4-1 要支援地域3島とのマッチングイベント開催

実体調査及び個別活動支援で浮かび上がった問題を広く社会に啓発すると共に支援者を募ることを目的として、オンラインイベント「小規模離島の海ごみ問題を考える勉強会」開催。課題を抱える3地域の実情を共有するとともに、海洋ごみ清掃に関する先進事例の紹介や意見交換を実施した。

■イベント概要

- ・イベント名: 小規模離島の海ごみ問題を考える勉強会
- ・開催日時: 2022年11月25日(金) 13:00~15:00
- ・形式: Zoom MTGによるオンラインイベント
- ・参加人数: 170人
(リアルタイム70人/アーカイブ動画視聴100人)
- ・参加費: 無料
- ・主催: NPO法人離島経済新聞社
- ・後援: 日本財団「海と日本プロジェクト」
- ・登壇者: 内野由太(福岡県地島)
佐藤滉治(愛媛県魚島)
大谷快、田中貞徳(山口県浮島)
- ・ゲスト: 金城由希乃(プロジェクト マナティ)
松本友哉(合同会社とびしま)
宮坂大智(村おこしNPO法人ECOFF)、
- ・司会: 鯨本あつこ(離島経済新聞社)
- ・調査報告: 松本一希(離島経済新聞社)

The poster features a blue background with the title '小規模離島の海ごみ問題を考える勉強会' at the top. Below the title, three island maps are shown with labels: '魚島 愛媛県上島町', '浮島 山口県周防大島町', and '地島 福岡県宗像市'. On the left, a vertical label reads '小規模離島'. Below the maps, three speaker photos are displayed with their names and roles: '金城由希乃' (Project Manati), '松本友哉' (Contract Company Tobishima), and '宮坂大智' (Village Revitalization NPO ECOFF). On the right, a vertical label reads '司会・報告'. Below it, two more photos are shown: '鯨本あつこ' (Representative of Remote Islands Economic News) and '松本一希' (Research Report by Remote Islands Economic News).

4) 環境保全活動の支援活動

4-1 要支援地域3島とのマッチングイベント開催(イベント風景)



難島経済新聞社 **リターン海日本 PROJECT**

人口わずかな島が
世界規模の課題に
立ち向かうためには
多くの仲間が必要です

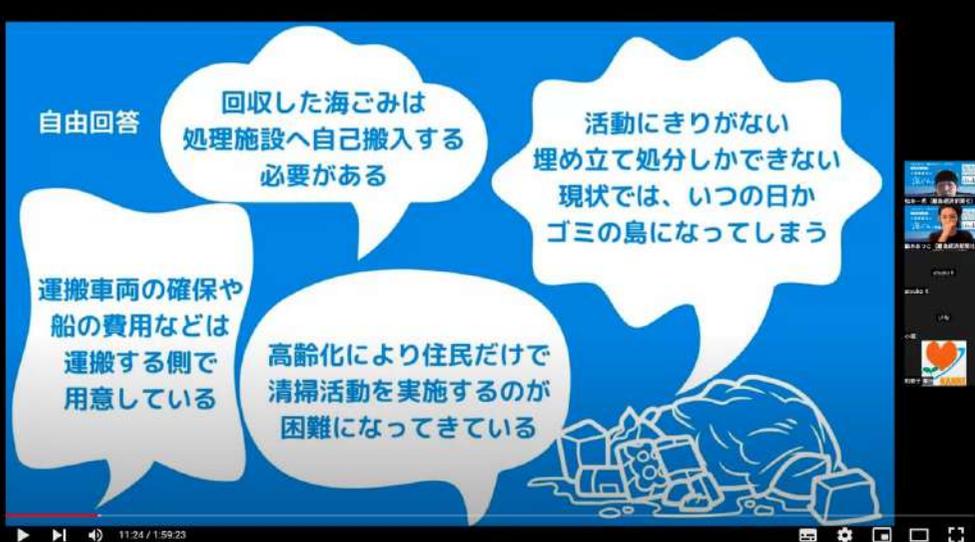
自由回答

回収した海ごみは
処理施設へ自己搬入する
必要がある

活動にきりが無い
埋め立て処分しかできない
現状では、いつの日か
ゴミの島になってしまう

運搬車両の確保や
船の費用などは
運搬する側で
用意している

高齢化により住民だけで
清掃活動を実施するのが
困難になってきている



11:24 / 1:59:23



日本
リターン海日本
PROJECT

〈海岸清掃の担い手〉

- ・島民中心
- ・元気な地島づくり協議会が中心

※協議会：漁協、各区長、学校長など13名が参加

直明

28:08 / 1:59:23

浮島
海底ごみ



写真提供：なぎさ水族館 内田 博陽

46:51 / 1:59:23

4) 環境保全活動の支援活動

4-1 要支援地域3島とのマッチングイベント開催(イベント風景)



事例 | ②とびしまクリーンツーリズム | 2014~

2014年 事業開始

山形県民を対象とし、県唯一の有人離島である飛島に親しむと共に海岸清掃を通して漂着物問題を学ぶ1泊2日のツアーを23回開催。

2015年 子供向け環境教育ツアーへ

2015年度からは県内の小中学生親子に限定して実施。スノーケリングやイカダ作り体験を通して飛島の自然に親しみ、ごみ拾いとワークショップにより環境問題を学ぶ。

2019年現在 (2020年は中止)

参加者累積

約1,700名

集めたごみ

約780袋

海ごみゼロアワード

日本財団賞

ご質問 (事前アンケートより)

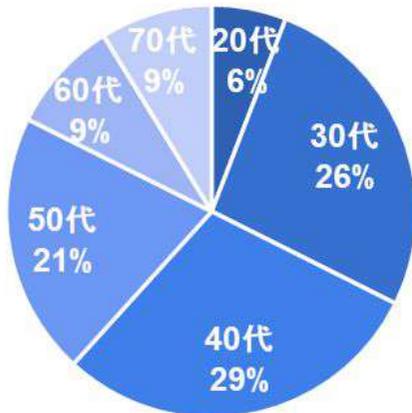
- ・自治体と民間企業が連携して取り組めることは何があるか?
- 「海がきれいになりすぎると、以前捕れていた海産物が捕れない」という話を聞いたことがあるが、本当か?
- ・海で働く漁師さんが海ごみを出すケースもあると聞くが、その原因はどういったものがあるのか?
- ・継続するには、どのような方法があるのか?
- ・周りの人の意識を変えていく為にはどうすればいいですか?
- ・自分自身が離島に住んでいないため、積極的に関わりたいともその地域の方自体が海ごみに関心がないとなかなか理解、協力してもらえないケースが非常に多い。(特にゴミの処分) どういったようなアプローチが良いかを、外部の立場から、内部の立場からの両方からのアイデアとして教えてほしい。
- ・外部からの協力ももちろん必要ですが、外部ばかりが頑張ったり盛り上がりすぎるだけでなく、地元の方(離島に住む方)も外部頼みではなく一緒に考えて活動していかなければならないと思っております。そのコーディネートであったり、話し合いの場をもうけたりするコツなどを知りたいです
- ・小規模離島の海ごみ問題について、どうやって島外の方に興味を持ってもらい、巻き込んでいこうとしているのか
- ・私の住んでいる知夫里島は人口600人程なので500人以上ではありませんが、やはり高齢化による人出不足や処理費用の問題など、おなじような課題がありますし、隠岐諸島全体でも「海ごみ問題」は今後より負担増になると思われます。私自身、海ごみ拾いボランティア活動をしているのですが、ボランティアの限界を感じるので、活動資金の作り方や活動の連携や発展のさせ方のヒントが買えたら
- ・離島という処理施設を持ちにくい場所だからこそその工夫などもありそうな気がします。何かグッドアクションがあれば知りたいです。都会の人が学べる知恵もあるのでは、と思いました。(例)山口県祝島の生ごみを家畜の動物が食

4) 環境保全活動の支援活動

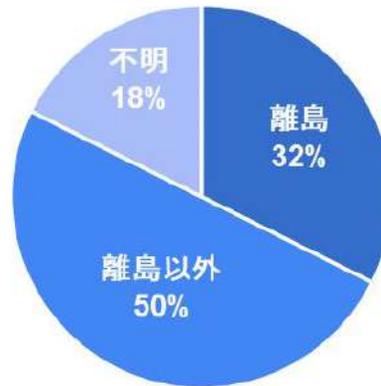
4-2 要支援地域3島とのマッチングイベント開催(事後アンケート)

■参加者アンケート回答(有効回答数34)

■参加者年代

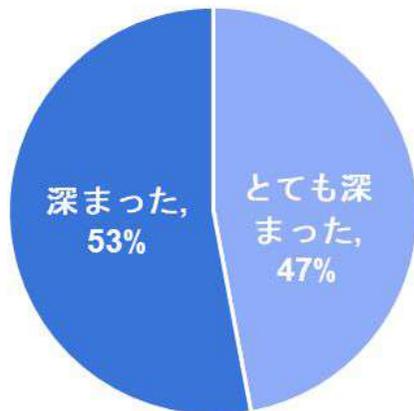


■参加者居住地

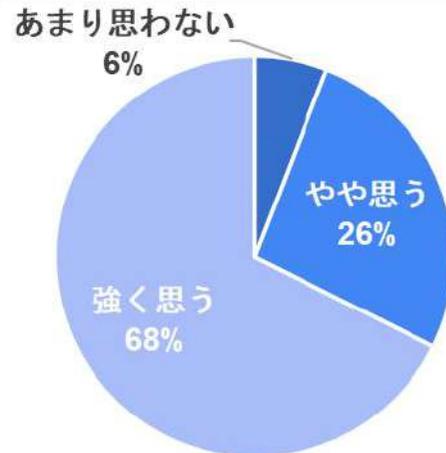


参加者年代は30～50代が中心。実際に離島地域で地域活動を担う当事者であったり、海ごみ関心層でもアクティブに活動を行う当事者であることが推測される。参加者の居住地は、離島地域が3割に対し、離島地域外が5割と、離島地域の当事者よりも海ごみ問題関心層のほうがやや多い結果となった。これはリトケイ読者層で、都市部、本土在住ながら離島地域での活動に興味を持っている層が参加者したことと推測される。

Q1.「小規模離島の海ごみ問題について考える会」を通じて、海ごみ問題に関する理解は深まりましたか？



Q3.小規模離島の海ごみ問題について具体的なアクションを起こしてみたい(すでに活動している人はより活動に力を入れたい)と思いませんか？



イベントを通じての海ごみ問題に対する理解は、とても深まった、深まったを合計すると100%に達し、参加者の満足度の高さがうかがえる。今後の活動へのモチベーションについては、7割近くが具体的なアクションを起こしたいと「強く思う」結果になっている一方、わずかながら「あまり思わない」という回答の人もいた。その理由としては、「実際にビーチクリーンを行うと際限のなさに圧倒される」という現実的な意見も出ており、当事者たちへ具体的な解決策の提示が必要とされることが伺える。

4) 環境保全活動の支援活動

4-2 要支援地域3島とのマッチングイベント開催(事後アンケート)

Q2.Q1でお答えになった理由をお聞かせください(自由回答)

- 住んでいる島だけの問題ではない事がわかった
- 色々な離島の事例や取り組みが参考になった。
- 海ゴミが海流によって国外から大量に流れついている事実を知った。
- 何がネックになっているのか、改めて確認できた。
- 人手不足・高齢化・資金不足・処理施設の不在など共通の問題が多いことが分かった。
- 民間の具体的な取り組み事例を知ることができた
- 自分の知らない知識を得られた。
- 漂着ゴミや旅行者が捨てたゴミにどのような対処を取れば、楽しみながら継続した清掃ができるのかを知れた
- 各島の現状、活躍している人たちの顔が見え、思いも理解できた。
- 島で具体的に取り組んでおられるリアルな状況を知れたので
- 各島々で漂着ゴミの清掃・運搬・処理に至るまでの活動を試行錯誤しながら取り組んでいると言う事例が知れた事。
- ただ、ごみを拾えばいいというだけでなく、島々での問題がたくさんあり、全体を通じてごみ問題を解決していく必要があると強く感じました。
- 現地に根差し、外部の方も巻き込んだ取組を実施されている方についてお話を伺ったことで、現地の実態や新しい取組の理解が深まりました。
- お話の趣旨がいずれも関係人口をどうつくるか、どう巻き込むかという論点に偏っていた気がして、もっと思い切った違うアプローチはないものかと思いました。関係人口をつくる、維持するのは、いくら工夫をしたところで、やはり労力があるものです。延々と押し寄せるゴミを目の前にして、普通の人間がそれをやり続けるのは非常にしんどいだろうと思います。
- ゴミ処理が大変であることが分かった
- 私は小笠原に住んでいますが、内地に近い離島の方が処理の問題に直面していることを知ったり、海ごみではなかなかお金を生み出しにくいと思っていたがマナティの取り組みを知り、アイデアの幅が広がりそうだと感じた。

4) 環境保全活動の支援活動

4-2 要支援地域3島とのマッチングイベント開催(事後アンケート)

Q2.Q1でお答えになった理由をお聞かせください(自由回答)

- 各島の代表の方からの、現状が聞けたから。
- 実際に島を訪れたいと思いました。
- 場所は離れていますが、こうしてつながり情報を共有することで
- "小規模"から"大規模"な仲間づくりを期待しました。
- 様々な取り組みや考えを知ることができたため。
- 同じような小規模離島にて、どのような活動を行っているのか、期待以上の前例を知る事ができたため。
- 自身で海系のメディアを運営しているので、次の記事に役立てようと思いました。
- 環境を破壊するゴミは皆の問題、課題であるから。
- 海ごみ問題は喫緊の課題だと思うことと、ちょうど顧客と共同で取り組む機会なので
- 自身がアーティスト活動をしているため SDGsの観点から大量の漂着ごみ(発泡スチロールの塊・ブイ・漁網・流木・プラゴミ等)を素材にした「海に浮かべ乗って遊ぶ遊具アート」の創作活動に興味や関心があるから。
- 会社のボランティア活動で、浜辺の清掃を年2回実施していますが、離島へ行き、島の魅力に触れてみたいと感じました。
- 現在住んでいる小笠原のごみ問題に注力したいと考えているため。ただ、小規模離島の海ごみ問題から学べることも多く、今後も情報収集させていただければ幸いです。
- 島に実際に訪問し清掃活動にも参加したいです。
- 先日石垣島平野海岸に清掃に行きましたが、すごい漂着ごみでした。。
- 明るい希望が見えてきたので。
- プレゼンにあった他の島よりも、私が住む島はゴミが少ない方であると感じた。ビーチクリーンを始めることは、思ったよりも簡単なことであるのでは?と思えた。
- もともと愛知県を中心に海ゴミ問題に取り組んでいる。愛知県にも離島があり、深刻な状況は聞いていたので、お互いにwinwinになる仕組みを作り上げて、やっていきたいと意欲を強くした。どうしたらその関係を作っていけるか、自分たちだけでは足りないところも多いので、貴社や日本財団様、地元自治体等、他団体と組めると嬉しいです。

4) 環境保全活動の支援活動

4-1 要支援地域3島とのマッチングイベント開催(事後アンケート)

Q2.Q1でお答えになった理由をお聞かせください(自由回答)

- 以前、鳩間の油化プラントでリトケイさんにも取材していただいた者です。3年間の地域おこし協力隊の任期を終え、今は石垣島にある環境コンサルタント会社で働いています。現在は笹川平和財団の海洋政策研究所と竹富町との協同で、漁業系漂着ゴミの調査を行っています。基本的には学術研究が第一義的な目的なので、それと並行して個人で何ができるか、私にもできることは何かあるかと考えています。
- 綺麗な海、地球が良いから
- 全てを解決するにはとても難しいことがわかりましたが、1人の力でも役に立てることも知りました。沖縄に観光に行くときにマナティを行ったり、村おこしボランティアに参加したいと思いました。
- できる範囲でできることを続けていくことが大切だと改めて思えたため
- 実際にビーチクリーンを行うと、際限なさに圧倒される。

4) 環境保全活動の支援活動

4-2 オンラインコミュニティの運営

▼ Facebookグループ「小規模離島の海ごみ問題を考える会」



オンラインイベント参加者を中心に、単発のイベントだけでなく継続的に情報交換および連携をするために立ち上げた。フェイスブックのグループ機能を使い、参加者同士の自由な発言をしやすい環境を担保するため、まずはプライベートグループとして運用を始めている。

＜中心参加者層＞

- ・小規模離島在住者
- ・環境問題関心層

これらの双方が集まっており、事務局からの海ごみに関する時事情報の共有のほか、参加者からのイベント募集告知やアンケート形式の意見交換などを行う場になっている。

- ・ローンチ日：2022年11月9日
- ・グループ参加人数：112人（※2023年2月19日現在）
- ・週平均投稿数：1～2回

4) 環境保全活動の支援活動

4-2 オンラインコミュニティの運営

▼ アンケート形式の意見交換の例

離島経済新聞社 - The Archipelago News "Japan" -
管理者 · 2022年12月2日 · 4

こじまのQ&A No.2

島に住んでいないけれど島の役に立ちたいと思う方々は、どのようにアプローチできるよいか？ みなさんの参考情報・アイデアをぜひご共有ください。

小規模離島のごみ問題を考える会 みんなのQ&A
(みなさんの知識やご意見をぜひコメントください)

Q.自分自身が離島に住んでいないため、積極的に関わりたくともその地域の方自体が海ゴミに関心がないとなかなか理解、協力してもらえないケースが非常に多い。(特にゴミの処分について) どういったようなアプローチが良いかを、外部の立場から、内部の立場からの両方からのアイデアとして教えてほしい。

森田 将悟
初めまして、鳥取で海ごみ問題に取り組んでいます森田と申します。娘と一緒にNICO Claftというチームを作り、海ゴミを使ってキーホルダーを作るという活動を通じて、問題を啓発することに取り組んでいます。

今年の3月に沖縄・波照間島にて海岸清掃&工作ワークショップを行いました。この実現に当たってはSNSで知り合った現地の親子と強力な関係性を築けたことが要因でした。

当たり前のことですが、離島で清掃活動を行う住民と一緒に活動することがポイントかなと思います。参考までに新聞記事を紹介させていただきます。

いいね! 返信する 11週間 4

鯨本 あつこ
情報をありがとうございます! すごくすてきな取り組みです。

いいね! 返信する 11週間

オンラインイベントででてきた質問で、時間内に回答をできなかったものについて事務局よりアンケート形式で質問。コミュニティ参加者からコメント欄で回答をいただいた。有効な内容もあったが、設問設計においては回答で、離島のごみ問題の持つ難しい問題を背景に、厳しい意見が飛び交うことも予想されたため、今後の運営については内容等を十分吟味する必要性が感じられた。

4) 環境保全活動の支援活動

4-2 オンラインコミュニティの運営

▼事務局からの時事情報共有例

離島経済新聞社 -The Archipelago News "Japan"-
管理者 · 2月7日 22:30 · 🌐

"国境の島"地理を活かす 地域再生大賞で「対馬CAPP」準大賞 漂着ごみ解決へ輪を広げたい(長崎県|対馬)
<https://nordot.app/992256013353877504>



NORDOT.APP
"国境の島"地理を生かす 地域再生大賞で「対馬CAPP」準大賞 漂着ごみ解決へ輪を広げたい | 長崎新聞
長崎新聞社など全国の地方新聞と共同通信が地域活性化の取り組みを表彰する第13回地域再生大賞で、対馬市...

👍👍👍 13 コメント1件 63人が既読

👍 いいね! 💬 コメントする

Haruli Mai
おめでとうございます🎉
素晴らしい活動ですね👍👍👍
いいね! 返信する 1週間

日本全国の環境保全、海洋保全、海ごみに関する取組にまつわるニュースについて、離島地域に特化してリサーチ、抽出してコミュニティに情報共有。参加者の日々の活動の一助になるべく情報提供を行っている。

投稿に対しては平均6割の既読率、1割程度のリアクションを集めており、定期的なコミュニケーションツールとしても今後とも継続、強化していきたい。

離島経済新聞社 -The Archipelago News "Japan"-
管理者 · 1月18日 · 🌐

生ごみ資源化実証始まる 知名町の酔庵塾 脱炭素へ可燃ガス、肥料生成(沖永良部島 | 鹿児島)
<https://www.nankainn.com/.../%E7%94%9F%E3%81%94%E3%81%BF...>



NANKAINN.COM
生ごみ資源化実証始まる 知名町の酔庵塾 脱炭素へ可燃ガス、肥料生成
沖永良部島で持続可能な島づくりを目指す

👍 13

離島経済新聞社 -The Archipelago News "Japan"-
管理者 · 2022年12月21日 · 🌐

こちらでは離島の海ごみにまつわるニュースも定期的にシェアしていきたいと思ひます。人口漁礁「プラなし」目指せ (白石島 | 岡山県)
<https://www.yomiuri.co.jp/.../news/20221122-OYNT50212/>



YOMIURI.CO.JP
岡山：人工魚礁「プラなし」 目指せ：地域ニュース
【読売新聞】海底に沈めて多様な生物をはぐくむ人工魚礁を自然にある素材だけでつくっ...

👍👍👍 12 コメント1件 68人が既読

👍 いいね! 💬 コメントする

大幹 快
こういったシェアは嬉しいです。一人では見逃しがあるので。

4) 環境保全活動の支援活動

4-2 オンラインコミュニティの運営

▼参加者からの投稿例

 **城家 尚子**
1月1日 · 🌐

📍石垣島で始めた海ゴミ回収ボランティア
新年あけましておめでとうございます 🎉

昨年6回も大阪から石垣島に行ってしまいました。なぜか？それはあまりにもひどいゴミだったから。フタをちゃんと閉めたペットボトルのみ、打ち上げられてフタを開けてないのは川や海の底。いろんなゴミが中国や韓国から北風に乗って流れてくる。... **もっと見る**



石垣島ビーチクリーン
テキスト
2023.1.14~15 石垣島平野海岸右

 **Sadanori Tanaka** 投稿者
14日のロボットビーチクリーン対決イベントのチラシを入手しました。



いいね! 返信する 7週間

 **Sadanori Tanaka**
2022年12月13日 · 🌐

当方、小規模の島ではありませんが山口県周防大島町から参加させていただきました。何処も同じ悩みがあるようですが、何とか知恵を出し合い、少しでも関心を持ってもらう事で、ゴミが減ってくれればと思う毎日です。

来年1月7日(土) 13:30から大島文化センター(周防大島町)で教員、研究者、生活者、海岸清掃団体での意見交換会。
同14日(土) 10時半~13時まで、周防大島町立岩海岸で海ごみ運搬ロボコンが開催されます。

👍❤️👤 あなた、他17人 コメント2件 77人が既読

👍 超いいね! 🗨️ コメントする

 **離島経済新聞社 -The Archipelago News "Japan"-** 管理者
情報をありがとうございます!お近くの方はぜひ。
<ご参考>周防大島町までのアクセス
<http://www.suouoshima.com/access.html#car>

 **SUOUOSHIMA.COM**
交通アクセス ... 周防大島ドットコム

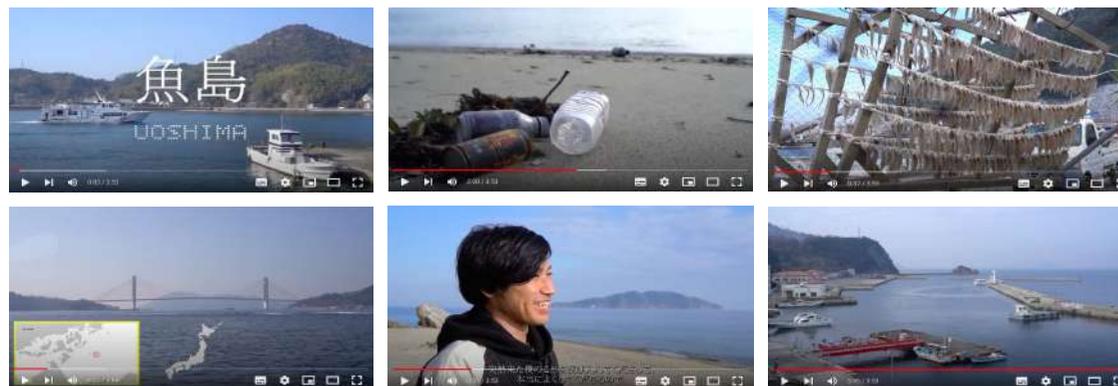
いいね! 返信する コメント投稿者: 鯨本 あつこさん 📍 プレビューを削除 9週間

コミュニティ参加者から自発的な投稿も散見されている。主に主催イベントの告知が多く、コアな興味層に情報をお届けするのに役立っていると考えられる。
今後は事務局から情報提供を積極的に促し、より多くの参加者発信型のコミュニティを目指したい。

4) 環境保全活動の支援活動

4-3 要支援地域3島への情報発信支援

101島調査の結果、海洋ごみの清掃活動に課題があり発展的解決を求める3地域に対し、島外のサポーター・パートナー候補者とつながるための情報ツール(動画、写真、テキスト)を無償提供。令和5年度以降の活動において活用される。

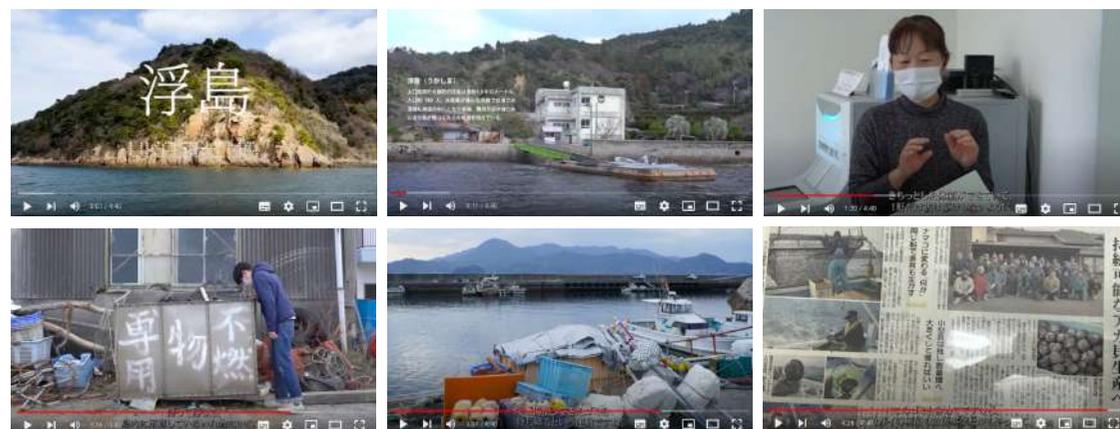
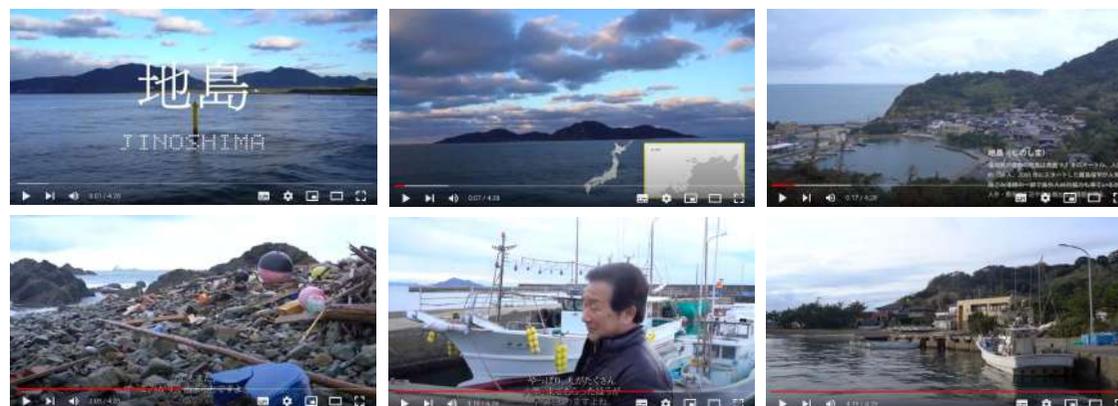


<要支援地域>

浮島／岡山県周防大島町浮島
魚島／愛媛県上島町魚島
地島／福岡県宗像市地島

<提供素材>

- 動画(1点 ※3分程度)
- 画像(5点)
- テキスト原稿(1点)



5) 広報実績



本事業ではオンラインイベントの事前告知及び開催レポート報告の2回のタイミングでリリースを配信。
事前告知では合計14件、開催レポートでは15件の、合計29件がニュースとして配信された。

特に事前告知では朝日新聞DIGITALなど有力媒体に掲載され、この問題の社会的注目の高さがうかがえた。

今回のリリースは主にオンラインメディアでの掲載が中心になり、朝日新聞DIGITALなどの中央紙のデジタル版以外に、愛媛新聞、山陽新聞、福島民報など島しょ地域を抱える地方の新聞社のデジタル版に掲載されることで、離島地域の人々に情報配信を行ったほか、exciteニュースやniftyビジネスなどのオンラインメディアでの配信を通じて、広く全国に在住する興味関心層に情報を届けることができた。

5) 広報実績

「小規模離島の海ごみ問題を考える会」オンライン勉強会リリース掲載(一部)

朝日新聞DISITAL	https://www.asahi.com/and/pressrelease/423316914/
愛媛新聞ONLINE	https://www.ehime-np.co.jp/article/prtimes1873
niftyビジネス	https://business.nifty.com/cs/catalog/business_release/catalog_prt000001296000077920_1.htm
exciteニュース	https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2022-11-11-77920-1296/
SDGSオンライン	https://sdgsonline.jp/99351/
山陽新聞DIGITAL	https://www.sanyonews.jp/article/1329289?rct=prtimes_chushikoku
時事.com	https://www.jiji.com/jc/article?k=000001296.000077920&g=prt
JORDAN news	https://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PT001296A000077920
ニコニコニュース	https://news.nicovideo.jp/watch/nw11681147?news_ref=search_search
ニッポンふるさとプレス	https://www.furusato-s.co.jp/press/2022/11/08/%e3%83%aa%e3%83%88%e3%82%b1%e3%82
PR-Hosting	https://hokihosting.com/business/35152/
B2BBプラットフォーム業界 ch	https://b2b-ch.infomart.co.jp/news/detail.page?IMNEWS4=3638666
BIGLOBEニュース	https://news.biglobe.ne.jp/economy/1111/prt_221111_7064720210.html
フレッシュアイニュース	https://news.fresheye.com/prtimes/article/pr-000001296.000077920.html
日本農業新聞	https://www.agrinews.co.jp/news/prtimes/122166
農林水産.com	https://nourinsuisan.com/23227/
福島民報	https://www.minpo.jp/prtimes/moredetail/12188
福島民友新聞	https://www.minyu-net.com/release/prtimes/000001364000077920.php

総括

世界規模の課題である「海洋ごみ」問題に対し、日本各地の沿岸部では多様な取り組みが行われている。同問題に関し「人口500人未満程度の小規模離島」に特化した今回の調査では、人口わずかな島ならではの問題として、ボランティア等の受け皿となる人材や団体の不足や外部団体とつながるきっかけ不足、離島ならではの環境特性による搬出問題などの課題が浮き上がった。

調査対象となった小規模離島(101島)でも、島によって状況の差異はあるが、共通課題としては大きく<①回収作業の人手および費用の不足><②回収後の保管・分別・搬出にかかる人手および費用の不足>の2つが挙げられる。

<①回収作業の人手および費用の不足>では、2022年度調査の結果、75%の島が海洋ごみに関する清掃活動を行っており、68%が活動の拡大を望み、そのうち90%が外部の団体やボランティアの人手を望んでいた。一方、清掃活動が十分に行えていない地域では海洋ごみの漂着を認識している一方、放置せざるを得ない状況も浮かび上がった。目立った理由は、特に人口の少ない小規模離島の住民は地域社会の維持に関わるあらゆる業務を少人数で分業しているため平時から忙しく、海洋ごみ問題を最優先に行うことができないことだった。

<②回収後の保管・分別・搬出にかかる人手および費用の不足>については、本土と橋でつながらない離島ならではの深刻な問題である。海洋ごみを回収しても、保管場所や分別にかかる人手、搬出費用の予算が確保できない島では、住民やボランティアが回収したごみを受け入れることができず、住民に対して「拾わないで欲しい」という地域も存在している。地域外から流れ着く海洋ごみは、離島地域から出されたごみではないにも関わらず、処理にかかる莫大な手間や費用が十分に補助されている状況ではない。

日本の有人離島の多くは人口減少が著しく、2050年には人口が半数になると見込まれている。有人離島の人口減少および無人化は、放置される海洋ごみの増加に直結する。

海洋ごみ問題は人口規模の小さな島だけでは解決できない問題である。同問題を放置しないためには小規模離島の調査を続けると共に、「飛島クリーンアップ作戦」といった優良事例を広め、ICT等の技術も活用しながら解決策を検討することが有効と考えられる。そのためには、同問題に興味関心を示す一般企業・団体・教育機関等との連携が欠かせないため、広く社会の耳目を集め、賛同者を増やす情報発信や場づくりが必須である。